



VOL. 66 | N° 02 | 2025
CENTENNIAL EDITION

100 Years★
of REFORM

the REFORMATION *herald*

神の最終的な再強化

後の雨と神の働きの完了



祈祷週 2025年7月11-20日

改革の100周年

SPECIAL
WEEK OF PRAYER



CENTENNIAL EDITION

優先する

人生には、緊急事態に直面する瞬間があります。イスラエルの民の大脱出の直前、時間は限られていました。過ぎ越しの食事に関して、神は彼らに指示を与えました。「あなたがたは、こうして、それを食べなければならない。すなわち腰を引きからげ、足にくつをはき、手につえを取って、**急いでそれを食べなければならない。これは主の過越である**」(出エジプト記 12:11 強調追加)。

待つ時間もなく、靴を脱いで自由にくつろぐ贅沢もなく、杖を置く機会さえありませんでした。人々はこの象徴的な食事に急いで参加しなければなりません。なぜでしょうか？

神はこう説明されました。「その夜わたしはエジプトの国を巡って、エジプトの国におる人と獣との、すべてのういごを打ち、またエジプトのすべての神々に審判を行うであろう。わたしは主である。その血はあなたがたのおる家々で、あなたがたのために、しるしとなり、**わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すであろう**。わたしがエジプトの国を打つ時、災いが臨んで、あなたがたを滅ぼすことはないであろう」(出エジプト記 12:12、13 強調追加)。

それは生死に関わる問題でした。彼らは神の導きに従って、自分の時間を優先する必要がありました。

わたしたちは今日、同じような状況にあるのではないのでしょうか。「見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる」(イザヤ書 60:2)。わたしたちは今日、バビロンの混乱に陥った群衆の中で、ひどい暗闇に直面しているのではないのでしょうか。「『倒れた、大いなるバビロンは倒れた。そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつとなった。すべての国民は、彼女の姦淫に対する激しい怒りのぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と姦淫を行い、地上の商人たちは、彼女の極度のぜいたくによって富を得たからである』。わたしはまた、もうひとつの声が天から出るのを聞いた、『**わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。彼女の罪は積り積って天に**

達しており、神はその不義の行いを覚えておられる』」(ヨハネの黙示録 18:2-5) [強調追加]。

再び、これは生死に関わる問題です。社会を牛耳る王や商人たちは、このバビロンの混乱の加害者たちとの不義の関係という、複雑な網に絡みついています。どうすればわたしたちはこの罠から完全に逃れることができるのでしょうか？ どうすれば、他の人々がそこから解放されるよう、さらに助けることができるのでしょうか？

わたしたちは 100 年もの間活動してきました。ありがたいことに、神の恵みによって、多くのことが成し遂げられてきました。しかし、成し遂げられていないことも数多くあります。ですから、時間は実に限られていて短いのです。「教会が平安と繁栄の時にしなかった働きを、もっとも絶望的で厳しい状況の下、恐るべき危機の中で行わなければならないであろう。世俗的な妥協によって沈黙させられ、差し控えられた警告は、信仰の敵からの最も激しい反対の下で伝えられなければならない。」¹

しかし、わたしたちは急ぐ必要があります。「今の時を生かして用いないさい。今は悪い時代なのである」(エペソ人への手紙 5:16)。聖霊の満ちみちた注ぎは、長い間遅れています。それはわたしたちの完全な神の責任ではなく、むしろわたしたち自身の聖霊への飢え渇くことにおける怠慢—そして、そうです、神の恵みによって、満ちみちた注ぎのための準備における怠慢によるのです。

「わたしたちは心の戸をイエスに向かって開き、またサタンの侵入のあらゆる手段を閉じているであろうか。キリストの義のうちに立つことができるように日々により明確な光とより大きな力を求めているだろうか。自分たちの心から一切の利己心を空にし、清め、天からの後の雨を受ける準備をしているであろうか。」²

キリストは十字架、復活、そして昇天を通して、恵み深く道を備えてくださいました。今、わたしたちはかつてないほど聖霊を切実に必要としています。聖霊を熱心に願い求めることが、わたしたちの最優先事項とならなければなりません。

教会への証 5 巻 463

ヒストリカル・スケッチ 155

Illustrations: Adobe Stock on the front cover

神の最終的な再強化

何かが補強されると、極度の圧力で自然に折れてしまうようなものでも、壊れないようにさらに強くなります。

わたしたちはどうでしょうか？ 今、肉体的にも、精神的にも、霊的にも、特に強く感じていますか？ 歴史上この不安定な時代に、すべての信者は、人間の弱さと限界、そして全能の神をどれほど必要としているかを痛感すべきです。

神は慈悲深く、わたしたちが今、さらなる強化からどれほど恩恵を受けるかご存知です。ですから、セブンスデー・アドベンチスト改革運動結成 100 周年にあたる今年、わたしたちは、この終わりの日に忠実な者に割り当てられた任務を完遂するために、神の最終的な強化が必要であることを認識しています。

わたしたちが謙遜のうちにこの特別祈祷週に集まるとき、熱心に満ちみちた聖霊の注ぎを求めて祈るべきです。この「活気づけ」は天から約束されたすばらしい再強化であり、非常に単純な条件に基づいて恵み深く供給されるものです。

この特別祈祷週のための読み物はこれらの条件の概要を述べており、後の雨のうちに聖霊を受けることによって豊かな祝福を得ようになります。

「神の最終的な強化」というテーマのこれらの聖書朗読を、これらの条件を真に遵守することを目指して、一この注ぎを受け入れる心を開き、準備を整えて一読み進めるとき、わたしたちの信仰は豊かに報われるでしょう。また、これらの聖書朗読の大きな祝福を、遠隔地にいる人々や家から出られない人々と分かち合うようにしましょう。

この特別な祈祷週に、この再強化を熱心に求めるすべての人々の心からの願いに主が恵み深く応え、後の雨の力によって聖霊を受けられますように。

編集記3

神の最終的な再強化

絶えず流れる油4

天からのほと9

空の器13

食事に関する準備19

火のような試練から出て25

一致にある強さ32

勝利の上になおも勝利を39

歴史的な年表44

詩46

あなたはどの霊を持っているか？

絶えず流れる油

エレン G. ホワイト編纂

「そこで天国は、十人のおとめがそれぞれあかりを手にして、花婿を迎えに出て行くのに似ている。その中の五人は思慮が浅く、五人は思慮深い者であった。思慮の浅い者たちは、あかりは持っていたが、油を用意していなかった。しかし、思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた。花婿の来るのがおくれたので、彼らはみな居眠りをして、寝てしまった。夜中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と叫ぶ声があった。そのとき、おとめたちはみな起きて、それぞれあかりを整えた。ところが、思慮の浅い女たちが、思慮深い女たちに言った、『あなたがたの油をわたしたちにわけてください。わたしたちのあかりが消えかかっていますから』。すると、思慮深い女たちは答えて言った、『わたしたちとあなたがたとに足りるだけは、多分ないでしょう。店に行って、あなたがたの分をお買いになる方がよいでしょう』。彼らが買いに出ているうちに、花婿が着いた。そこで、用意のできていた女たちは、花婿と一緒に婚宴のへやにはいり、そして戸がしめられた。そのあとで、ほかのおとめたちもきて、『ご主人様、ご主人様、どうぞ、あけてください』と言った。しかし彼は答えて、『はっきり言うが、わたしはあなたがたを知らない』と言った。だから、目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである」（マタイによる福音書 25:1-13）。

金の油

「腰に帯をしめ、あかりをともしていなさい。主人が婚宴から帰ってきて戸をたたくとき、すぐあけてあげようと待っている人のようにしていなさい。主人が帰ってきたとき、目を覚しているのを見られる僕たちは、さいわいである。よく言うておく。主人が帯をしめて僕たちを食卓につかせ、進み寄って給仕してくれるであろう。主人が夜中ごろ、あるいは夜明けごろに帰ってきて、そうしているのを見られるなら、その人たちはさいわいである。…あなたがたも用意していなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」

わたしたちはここで、わたしたちが信仰に富んだ者となることができるために、また約束に従って相続者となれるために、主が備えて下さった特権を自分から奪ってしまうことがないように警告されている。わたしたちは主が来られるのを寝ずに見張っていなければならない。霊的なまどろみの最初の症状は厳しく克服しなければならない。霊的な怠惰に対する最初の傾向に固く抵抗しなければならない。「身を慎み、目をさましていなさい。」というのが、使徒の訓告である。

一瞬一瞬を忠実に用いなければならない。「最後まで耐え忍ぶ者は救われる」。わたしたちは自分自身の救いの

達成のために働くようにと命じられている。そしてそれをどのようにすべきか方法がはっきりと述べられている。「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。」

自分の主にお会いする準備ができていない人々は自分たちのあかりに恵みという油を満たし続けている。思慮の浅いおとめが思慮深いおとめと違ったのは、これを怠ったからであった。彼らにはあかりはあったが、油がなかった。彼らの品性はテストに耐えることができなかった。思慮深いおとめたちは真理についての知的な知識があったばかりではなく、キリストの恵みを通して彼らの信仰と忍耐と愛は絶えず増していた。彼らのあかりは世の光との生きたつながりによって絶えず補給されていた。そして思慮の浅いおとめたちが起きた時には、自分のあかりが薄暗くなって、消えてしまいそうなのに気づいたが、その一方で思慮深いおとめたちのあかりはあかあかと輝き、祝宴に入り、そして戸は閉められたのであった。

思慮深いおとめたちが自分のあかりに満たしていた油は聖霊を象徴している。ゼカリヤは次のように記している、「わたしと語った天の使がまた来て、わたしを呼びました。わたしは眠りから呼びさまされた人のごようであった。彼がわたしに

向かって『何を見るか』と言ったので、わたしは言った、『わたしが見ていると、すべて金で造られた燭台が一つあって、その上に油を入れる器があり、また燭台の上に七つのともしび皿があり、そのともしび皿は燭台の上にあつて、これにおのおの七本ずつの管があります。また燭台のかたわらに、オリブの木が二本あって、一本は油をいれる器の右にあり、一本はその左にあります』。…

わたしはまた彼に尋ねて、「燭台の左右にある、この二本のオリブの木はなんですか」と言い、重ねてまた「この二本の金の管によって、油をそれから注ぎ出すオリブの二枝はなんですか」と言うと、彼はわたしに答えて、「あなたはそれがなんであるか知らないのですか」と言ったので、「わが主よ、知りません」と言った。すると彼は言った、「これははふたりの油そそがれた者で、全地の主のかたわらに立つ者です」。

ご自分のみ座のまわりにいる聖なる存在によって、主は絶えず地上の住民と通信しておられる。金の油は神が信徒たちのあかりに供給しつづけておられる恵みをあらわしている。神の御霊のメッセージのうちに、この聖油が天から注がれなければ、悪の代理人たちが完全に人々を支配していたことであろう。

神はわたしたちに送って下さる通信を、わたしたちが受けないときに辱められる。こうしてわたしたちは闇の中にいる人々に伝えるべき金の油を拒むのである。「わたしの民よ、彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。」との召しが聞こえるとき、聖油を受けてこなかった人々、自分の心の内にキリストの恵みを大切にしておかなかった人々は、思慮の浅いおとめと同じように、自分たちの主にお会いする準備ができていないことに気づくのである。彼らは自らのうちに油を得る力がなく、彼らの生涯は破滅であった。しかし、もし神の御霊を求めらば、もしわたしたちがモーセのように「あなたの栄光をお示し下さい」と嘆願するならば、神の愛がわたしたちの心の内に広く注がれるのである。金の油がわたしたちに与えられる。¹

油の注ぎ

神の民は宇宙における最高の感化のあらわれのための水路となるべきである。ゼカリヤの幻の中で、神のみ前に立つ二本のオリブの木は聖所の器の中に流れ込む金の管を通して、金の油を注ぎ出していた。ここから聖所のあかりは給油されており、絶えず明るく輝く光を発することができた。同じように神のみ前に立つ油注がれた者たちから満ちみちた神の光と愛と力が神の民に与えられる。こうして彼らが他の人々に喜びと活気づけを与えることができるためである。彼らは神の手段が世に神の愛の潮を伝達する管となるのである。

神が今日ご自分の民を通して成し遂げようとしておられる目的は、神がエジプトからイスラエルを導き出されたときに成し遂げようと願われたことと同じである。教会の中にあらわされる神の善、憐れみ、正義、愛をながめることによって、世が神のご品性の代表を得ることである。そして神の律法がこのように生活において例証されるとき、世でさえ、神を愛し、おそれ、仕える人々が他のどの民よりも優れていることを認めるようになる。**主はご自分の民のひとり一人にご自分の目を注いでおられる。このお方には各自に関するご計画がある。**²

光は広く注がれる

希望と憐れみのメッセージは、地の果てにまで伝えられなければならない。望む者はだれでも、手を伸ばして神の力を自分のものとし、神と和らぎ、平和を得ることができる。異教徒も暗黒に閉ざされている必要はない。輝かしい義の太陽の光の前では、やみは消え去らねばならない。よみの力は、打ち破られたのである。

しかし、自分が与えられていないものを、他に分け与えることは、だれにもできない。人間は、神の働きにおいて、何一つ自分で造り出すことはできない。だれでも、自分の力によって、神のために光を掲げる者となることはできない。天からの使者が金の油を金の管に入れ、その油が金の器から聖所の燈台に流れ込んでいくことによって、光があかあかと輝いたのである。人間も神の愛が絶えず注がれることによって、光を放つことができる。

すべて、信仰によって、神と結合した者の心には、愛という金の油が豊かに流れ込んで、よい行ないや、神に対する真心からの奉仕となって輝きである。

聖霊という大きな無限のたまものの中には、天のすべての資源が含まれている。神の恵みの富が、地上の人びとに流れないのは、神の側に何か制限があるためではない。喜んで受けさえるならば、だれでも聖霊に満たされるのである。**神の恵みの富、はかり知ることのできないキリストの富を世界に伝えるための神の生きた通路になるという特権は、だれにでも与えられている。**キリストは、他の何ものにもまして、キリストのみ霊と品性とを世界に代表する器があらわれるのを望んでおられる。人間によって救い主の愛があらわされることほど、世界が求めているものはない。人の心に喜びと祝福を与える清い油を注ぐことができる管を、全天は待っているのである。³

各自が器

今日、神の教会の信徒たちは、すべての霊的成長の源であられる神との強いつながりを持っていないければ、刈り入れの時に備えていることにならないであろう。彼らは絶えずランプの芯を切りそろえて、燃やしていなければ、いざというときに特別の恵みにあずかることができない。

恵みを絶えず新たに受けている者たちだけが、日常の必要に応じて、また力を用いる彼らの能力に応じて、力を受けるであろう。霊的な力が特別に賦与されて、やがて救霊のために驚異的な装備を受ける時が来るのを待ち望むのではなく、彼らは、神の御用にふさわしい器としていただくために、日ごとに神に従っている。彼らは手の届く範囲にある奉仕の機会を毎日利用している。家庭の地味な仕事をしていても、あるいは、有用な社会の職場にいても、…彼らは主のためにあかしを立てている。

キリストでさえこの地上でのご生涯に、毎日必要な恵みを神に求められたということは、献身的な働き人にとって、すばらしい慰めである。神とのこの交わりから、イエスは力を受けて、人々を力づけ、祝福するために出て行かれた。神のみ子が父の前にこうべをたれて祈っておられる姿を見よ。…**主の働きに全く献身するすべての人に、主は神**

からの援助を約束しておられる。神に頼りきって、みわざに惜しみなく献身する信仰、この信仰をもって神に熱心に、忍耐強く懇願すれば、罪との戦いにおいて聖霊の助けを必ず受けることができる。このことを主ご自身の模範は保証している。⁴

今直ちに手に入れることができる！

全天の宝がわたしたちの要求と受け入れを待っている。そしてわたしたちが祝福を受けるときに、今度は、それを与えるのである。こうして聖なるあかりが大きくなり、教会は世において光を担う者となる。

これは、主がこの時に、すなわち神の僕らの額に印が押されるまで四人の天使が四方の風を引き留めているときに、すべての魂がなす準備をしているよう望んでおられる働きである。今、自分を喜ばせている時間はない。魂のあかりは芯が切りそろえられていなければならない。恵みの油が供給されなければならない。主の大いなる日が夜中の盗人のようにわたしたちに来ることがないように、霊的な低下を防ぐあらゆる予防策がとられなければならない。神のためすべての証人は今、神が定めて下さった隊列で知的に働くべきである。**日々、クリスチャン品性を完成させる働きにおいて、深く生きた経験を得るべきである。わたしたちは人々に与えることができるように、日々聖油を受けるべきである。すべての人が望むなら、世に対して光を担う者となることができる。わたしたちはイエスのうちに自己をしめて見失わなければならない。勧告と教えの中にある主のみ言葉を受け、喜んでそれを伝えなければならない。**今、大いに祈りを必要としている。キリストは、「絶えず祈りなさい」とお命じになった。つまり、思いを、神、あらゆる力と効力の源に引き上げ続けることである。

わたしたちは長くせまい道に従ってきたかもしれない。しかしそれを終わりまで従うであろうという証拠にするのは安全ではない。もしわたしたちが御霊の交わりのうちに神と共に歩んできたならば、それは日々信仰によってこのお方を求めてきたからである。二本のオリーブの木から金の油が金の管を通してわたしたちに伝達されてきた。しかし、祈りの精神と

習慣を培っていない人々は善、忍耐、寛容、優しさ、愛という金の油を受けることを期待できない。

すべての人は悪に満ちた世から分離していなければならない。一時は神と歩みながら、またこのお方の同伴から離れて、自分自身のたいまつの花の中を歩むことはできない。堅固な継続、信仰の行為における辛抱強さがなければならぬ。…

わたしたちが今生きている時代は、求める者にとっては、聖霊の時代である。このお方の祝福を求めなさい。わたしたちが自分の献身においてもっと熱心になるべき時である。わたしたちに骨が折れる、しかしやみの中にいる人々にキリストを表すという嬉しく栄光に満ちた働きが委ねられている。この時代のための特別な真理を宣布するよう、召されている。すべてこれらのために、この聖霊の注ぎは重要不可欠である。そのために祈るべきである。主はわたしたちがご自分に求めることを期待しておられる。この働きにおいて、わたしたちはなすべきほどに心を尽くしてこなかった。⁵

わたしは流れをふさいでいるか？

御霊は、教会員がたがいに対して不一致や苦々しさをいだいている間は、決して注がれることはない。妬み、嫉妬、邪推、悪口はサタンのものであり、聖霊の働きに対して効果的に道をふさぐ。この世で神の教会ほど、このお方にとっていとしいものはない。これほど熱心に神に守られるものは他にない。ご自分の奉仕をしている人々の感化力を損なうような行動ほど、神にとって不快なものはない。このお方は批判したり失望させたりするサタンの働きを助けるすべての者に責任を問われる。

同情、優しさ、愛が欠けている人々は、キリストの働きをなすことができない。預言が成就する前に、弱い者も「ダビデのように」なり、ダビデの家は「主の使のように」なる。神の子らは自分の兄弟に関して疑いの思いをすべて捨てなければならない。心が心に一致して脈打たなければならない。クリスチャンの慈愛と兄弟愛は、はるかにもっと豊かに示されなければならない。次の言葉がわたしの耳に鳴っている、「共に近づきなさい、共に近づきなさい。」この時代のための厳粛で神聖な真理が、神の民を一致させなければならぬ。

らない。優位に立とうとする願望は死滅しなければならない。模倣するという一つの主題が、他のすべてをのみこまなければならない。だれが品性においてもっともキリストに近いかであろうか。だれが完全に自己をイエスのうちに隠しているであろうか。…

品性の変化は、内に宿ったキリストの愛についての世に対する証となるべきである。主はご自分の民が、贖う恵みの力は欠点のある品性に働いて、均整がとれた豊かに実るものに発達することができることを示すよう期待しておられる。

しかし、わたしたちが神のご目的を果たすためには、なされるべき準備の働きがある。主は疎遠の根である利己心をわたしたちの心から空にするようにと命じておられる。このお方は豊かにご自分の聖霊をわたしたちの上に注ぎたいと切望しておられる。そして自己放棄によって道をあけるようにわたしたちに命じておられる。自己が神に明け渡されるとき、わたしたちの目は、わたしたちのキリストに似ていないところが他の人の道に置いたつまずきの石を見るために開かれる。これらすべてのものを取り除くようにと神はわたしたちに命じておられる。このお方は、「互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。」と言われる。そのとき、わたしたちはダビデが自分の罪を告白した後、祈ったような確証を持つことができる。「あなたの救の喜びをわたしに返し、自由の霊をもって、わたしをささえてください。そうすればわたしは、とが犯した者にあなたの道を教え、罪びとはあなたに帰ってくるでしょう。」

神の恵みが内を治めるとき、魂は信仰と勇気とキリストのような愛の雰囲気、すなわち呼吸するすべての人に霊的な命へと生き生きさせる大気に囲まれるようになる。…キリストのゆるしの愛にあずかる人はみな、これらの尊い祝福のゆえに、接触するすべての魂に対して負債をおっていると感じるのである。主は按手を受けた牧師は近づくことのできない魂に手を差し伸べるために心のへりくだっている人々をお用いになる。彼らはキリストの救いの恵みを表す言葉を語るように心動かされるであろう。

そして他の人々を祝福する際に、自分自身が祝福されるのである。神はわたしたちに恵みを与える機会をくださる。こうしてこのお方が増し加わる恵みでわたしたちを再び

天からのほと

ダビ・パエス・シルバ著

神格のご臨在

神格全体は、わたしたちの救いの計画に関与しておられます。「神格は、人類に対する同情にかきたてられた。そして御父、御子、御霊は自らを贖いの計画を実行するために献身された。」¹

「その時イエスは、ガリラヤを出てヨルダン川に現れ、ヨハネのところきて、バプテスマを受けようとした。ところがヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った、『わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか』。しかし、イエスは答えて言われた、『今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである』。そこでヨハネはイエスの言われるとおりにした」(マタイによる福音書 3:13-15)。イエスがヨルダン川でバプテスマをお受けになったとき、天使たちは非常な関心をもってこの光景を見ていました。このお方は受肉され、わたしたちの代表者となっております。

「主は(バプテスマの)ヨハネに、どなたがメシヤであられるかを知るしるしを与えると約束されていた。そして今、イエスが水から上がられると、その約束されたしるしが与えられた。なぜなら、彼は天が開けて、**神の御霊、燃える金のはどのような形をした御霊がキリストの頭上にとどまる**のを見たからである。天からの声が次のように言うのが聞こえた、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』。²

「人のために祈られたキリストの祈りは、天の門を開き、御父はそれにお答えになって、墮落した人類のための嘆願をお受け入れた。イエスはわたしたちの身代わり、また保証人として祈られた。そしていまや人類家族はこのお方の愛する御子の功績を通して、御父に近づく道を見出すことができるのである。」³

ですから、本当に、御父、御子、御霊はみなバプテスマ—すべてのクリスチャンのバプテスマの象徴—の時におられ

ました。だから、信徒たちは次のように教えられます。「『それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである』」(マタイによる福音書 28:19-20)。

なぜほとなのか?

「イエスのバプテスマの時にこのお方の上にとどまったほと

の形のしるしは、このお方のご品性のやさしさをあらわしている。」⁴

これは、歴史上この時代—世の終わり—のわたしたちにとって何を意味するでしょうか。わたしたちの道に敵はいらっしゃいますか。

「あなたは鷹がおくびょうなほとを追いかけているのを見たことがあるだろうか。本能によって、ほとは鷹が自分の獲物をとらえるためには、自分の餌食よりも高く飛行しなければならぬことを知っている。そのため、ほとは、何とか優位に立とうとする鷹に追われながら、青い天空へ高くより高くなる。しかし、むだである。ほとは何ものにもその飛行を妨げられないかぎり、あるいは地上に向かわないかぎり安全である。しかしいったん止まってしまうと、また低く飛行すると、見張っている敵は自分の獲物に襲いかかる。何度も何度も、わたしたちは息をのむような関心をもって、この小さなほとに心から同情してこの光景を見てきた。その犠牲が残酷な鷹の手にかかってしまうのを見て、どれほど悲しく感じることであろう!

わたしたちの前には戦いがある。サタンとその魅惑的な誘惑との一生の戦いである。敵は魂をわなにかけるために、あらゆる議論、あらゆる欺瞞を用いる。そして命の冠を勝ち取るためには、熱心で辛抱づよい努力を払わなければならない。勝利を得るまで、そしてわたしたちの贖い主の

うちに勝利者となるまでは、武具を脱いだり、戦場を去ったりしてはならない。

わたしたちが自分の信仰の創始者であり完成者であるお方に目をとめ続けているかぎり、安全である。しかし、わたしたちの愛情は、地上にあるものではなく、上にあるものに置かれていなければならない。信仰によって、わたしたちはキリストの恵みのなし得ることに従って、高く、より高く上らなければならない。日ごとにこのお方の比類のない魅力を熟考し、ますますこのお方の栄光に満ちたみかたちへ成長しなければならない。このように天とのつながりの中で生きているかぎり、サタンがわたしたちに網をかけてもむだである。』⁵

実に、わたしたちがこのたとえに描かれたのを見た通り—まさに御父と御子は墮落した人類を永遠の滅亡から贖う使命を果たしてこられました。同じように聖霊もこのわたしたちのための驚くべき救出計画に欠けてはおられません。聖霊の力は、制限なく、約束されたちようどその通りに、必要に応じて注がれるのです。

終わりの時の聖霊

聖霊はこの働きの結果のために神の民を準備させる地上での主な代理者です。これこそ、わたしたちが日ごとに聖霊のバプテスマを求める必要がある理由です。「イエスは、毎朝神との交わりに幾時間かを過したあとで、人びとに天の光を与えるために出ていかれた。イエスは、日ごとに聖霊の新しいバプテスマをお受けになった。』⁶ もしイエス様がこの慰めを必要としたなら、墮落した状態にあるわたしたちはどれほど必要としていることでしょう。実際、わたしたちは救いに至る過程全体を通して、そして全世界に福音を伝えるという使命を果たすために、人生において聖霊の働きを必要としています。

キリストは天に召される前に、弟子たちにこの真理をはっきりと示されました。このお方はご自分の弟子たちにつきのように約束なさいました。「『ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地ののはてまで、わたしの証人となるであろう』(使徒行伝 1:8)。「見よ、わたしの父が約束されたも

のを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」(ルカによる福音書 24:49)。

どなたが聖霊のバプテスマをわたしたちに授けて下さるのでしょうか。律法学者やパリサイ人がバプテスマのヨハネの使命を尋ねたときに、彼はキリストについて次のように答えました。「『わたしは悔改めのために、水でおまえたちにバプテスマを授けている。しかし、わたしのあとから来る人はわたしよりも力のあるかたで、わたしはそのくつをぬがせてあげる値うちもない。このかたは、聖霊と火によっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。また、箕を手にとって、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め、からは消えない火で焼き捨てるであろう』」(マタイによる福音書 3:11-12)。

イエスこそ、聖霊によってご自分の子らにバプテスマをほどこされるお方です。

わたしたちはいつ天のはともってバプテスマを受ける必要があるのでしょうか。これは実際日々のごことです。前述のように、わたしたちは、一日一日この神の力を授けていただく必要があります。わたし自身の改心のためにも、神の御国のために新しい魂に手を差し伸べるためにも。

預言者ゼカリヤは次のように言いました、「あなたがたは**春の雨の時に**、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い、野の青草をおのおのに賜る」(ゼカリヤ書 10:1)。

いつが後の雨の時か？

「第三天使のメッセージが大いなる叫びへと盛り上がる時、あなたは自由に現在の義務をなおざりにしても良いと感じ、それでも将来はいつか大いなる祝福を受ける者になる時、すなわち自分の側で何の努力をしなくても、すばらしいバイバルが起きるだろう時がくるという考えをいだいてはならない。

今日、あなたは神に、このお方があなたを尊い器とし、ご自分の奉仕に見合うものとしてくださるよう献身しなければならない。今日、あなたは神に献身しなければならない。それはあなたが自己を空にし、妬み、嫉妬、邪推、争い、

すべて神を辱めることを空にしなければならない。今日あなたは自分の器を清めて、天のしずくのために準備ができるように、後の雨の注ぎのために準備できるようにしなければならない。なぜなら、後の雨は降るからであり、神の祝福がすべての汚れから清められたすべての魂を満たすからである。

今日、自分の魂をキリストに明け渡すことが、わたしたちの働きである。こうして主のみ前から来る慰めの時のため—聖霊のバプテスマのため—にふさわしい者とされることができるとである。」⁷

聖霊のバプテスマを受ける条件は何か？

預言者ホセアはわたしたちのために、後の雨の季節に聖霊の力を受ける基本的な条件を提示しています。：

「わたしは彼らとその罪を認めて、わが顔をたずね求めるまで、わたしの所に帰って来よう。彼らは悩みによって、私を尋ね求めて言う、「『さあ、わたしたちは主に帰ろう。主はわたしたちをかき裂かれたが、またいやし、わたしたちを打たれたが、また包んでくださるからだ。主は、ふつかの後、わたしたちを生かし、三日目にわたしたちを立たせられる。わたしたちはみ前で生きる。わたしたちは主を知ろう、せつに主を知ること求めよう。主はあしたの光のように必ず現れいで、冬の雨のように、わたしたちに臨み、春の雨のように地を潤される』」（ホセア書 5:15、6:1-3）。

これらの聖句の中に、後の雨を受けるために満たされなければならない次の条件を見出します。

1. わたしたちの本当の罪を認める
2. 心を尽くして、謙遜と悔悟のうちに主を求める
3. 主がわたしたちを再び生かして下さるように主のもとへ帰る
4. まずは主を知ること求める「神を知れば神を愛するようになる」⁸
5. そのとき、このお方はわたしたちに臨み、春の雨のように地を潤わされる

完全な明け渡し

「キリストは聖霊の賜物をご自分の教会に約束されたが、その約束は、最初の弟子たちと同じようにまたわれわれのものである。しかしほかのすべての約束と同じように、それは条件つきで与えられている。主の約束を信じ、これをわがものと主張する人は多い。彼らはキリストについて語り、聖霊について語るが、何の益も受けない。**彼らは天来の力によってみちびかれ、支配してもらうために魂をあけわたそうとしない。**われわれが聖霊を用いることはできない。みたまがわれわれを用いてくださるのである。みたまを通して、神は民のうちに働き、「その願いを起させ、かつ実現に至らせ」てくださるのである(ピリピ 2:13)。しかし多くの者はこれに従おうとしない。彼らは自分で自分を支配したいのである。これが、彼らが天の賜物を受けない理由である。**みたまは、へりくだった心で神に仕え、そのみちびきと恵みを待ち望む者にだけ与えられる。**神の力は彼らが求め、受けるのを待っている。この約束された祝福を信仰によって求めるときに、ほかのすべての祝福は次々と与えられる。それはキリストの恵みの富にしたがって与えられるのであって、主はどの魂にもその受け入れる能力にしたがっていつでも与えてくださる。⁹

「多くの人々は、前の雨を受けることに大いに失敗している。彼らは神が彼らのためにこのように備えて下さったすべての益を受けてこなかった。彼らはこの欠乏が後の雨で満たされることを期待している。最も豊かな恵みが与えられるときに、彼らは自分たちの心を開いてそれを受けようと思っている。彼らは恐ろしい間違いをおかしている。神がご自分の光と知識を与えることによって人の心の中に始められた働きは、絶えず前進しなければならない。一人ひとり個人は、自分自身の必要を感じなければならない。心はすべての汚れを空にし、御霊が内住するために清められなければならない。それは罪を告白し、罪を捨てることによる

のであり、熱心な祈りと神への献身による。こうして初期の弟子たちは、ペンテコステの日の聖霊の注ぎのために準備をした。同じ働きが、ただより大きな規模で、今なされなければならない。そのとき、人間の代理人はただ祝福を求め、主が自分に関して完全な働きをして下さることを待つだけである。働きを始められたのは神であり、その働きを完成されるのはこのお方であって、人をイエス・キリストのうちに完全にする。しかし、前の雨によって表されている恵みをなおざりにしてはならない。自分が受けた光に生きる人々だけが、より大きな光を受けるのである。わたしたちが日々活動的なクリスチャンの徳を例証することにおいて前進していなければ、後の雨のうちに聖霊のあらわれを認めることはないであろう。わたしたちのまわりのすべての人の心には降っても、わたしたちはそれを認めることも、受けることもないのである。

わたしたちの経験のどの地点においても最初のスタートを可能にした助けがなくて良い時はない。前の雨のもとで受けた祝福は終りまで必要である。しかし、なおそれだけでは十分ではない。わたしたちが前の雨の祝福を大切にすることを、その一方では、穂となり、穂の中に実を成熟させる後の雨がなければ、鎌のために収穫の準備はできないのであり、種まきの働きはむだになるという事実を見失ってはならない。神の恵みは最初に必要とされており、前進する一歩ごとに必要であり、また神の恵みだけが働きを完成することができる。わたしたちにとって不注意な態度のうちに休む場所はない。わたしたちは、キリストの警告を決して忘れてはならない。「目を覚まし祈っていなさい、目を覚ましていなさい、…そしていつも祈っていなさい。」毎瞬間、神の代理者とつながっていることは、わたしたちの進歩に不可欠である。わたしたちはある程度の神の御霊を得ていたかもしれないが、祈りと信仰によって絶えず、さらに御霊を求めるべきである。わたしたちの努力を決してやめてはならない。もし進歩をとめたら、もし、前の雨と後の雨の両方を受けるといふ態度のうちに自らを置かなければ、自分の魂を失うであろう。そして、責任は自分自身の門口にあるのである。」¹⁰

今は、世界中の教会で正式に組織され、存在するようになってから 100 周年を迎えています。わたしたちの目の前にある任務を真剣に考えるべき時です。自分の召しと選びとを確かなものとし、主との生きたつながりを保つことを確かにする時です。こうして、「そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している」（ピリピ人への手紙 1:6）。

今こそ、この邪悪な世界に別れを告げ、まもなく来られるイエスのために準備をすべき時です。こうして、わたしたちは自分の天のふるさとに行くことができるためです。主が世界中のご自分の民を後の雨をもって祝福してくださいように！

引用:

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 1. 健康への勧告巻 222. | 6. キリストの実物教訓 114 |
| 2. 神のむすこ娘たち巻 133. | 7. セレクトド・メッセージ 1 巻 190, 191. |
| 3. 今日のわたしの生涯巻 260. | 8. 各時代の希望上巻 4 |
| 4. セレクトド・メッセージ 2 巻 238. | 9. 同上下巻 158[強調追加] |
| 5. 今日のわたしの生涯巻 105. | 10. 牧師への証 507, 508. |

反射させること及び輝くこと

運動であることは、行動を含んでいます！ 実際的な行動によって聖霊を迎える準備をしましょう。

聖霊の導きに完全に明け渡しましょう。最近、あなたと神との間に入り込んでいる具体的な何かを明け渡しましょう。

「父よ、わたしの罪をお許してください。わたしがあなたの聖霊のために準備ができるよう、わたしたちを離れさせているものをすべて捨てるのを助けてください。アーメン」

空の器

ピーター・D・ラウゼビック著

世界がかつて目撃した最も偉大な伝道者であり教師であるイエスは、教え、説教し、癒しを通して 3 年半の神の奉仕を終えたばかりでした。種まきと種、麦と毒麦のたとえ話の中で、イエスは種まきとして描かれています。このお方の主な働きは種まきとして、真理の種を人類にまくことでした。¹

たとえの中では、収穫をもたらすのではありませんでした。「聞きなさい、種まきが種をまきに出て行った」（マルコによる福音書 4:3）。このために、「世のあがない主として、キリストは失敗とみえるようなことにたえず直面された。」² 大勢の群衆がイエスの教えを聞きに来ましたが、その間、救いのメッセージを公然と受け入れた人はごくわずかでした。ニコデモのように、群衆がイエスを十字架に連れて行くときに、メシヤだと気づいた人もいました。しかし、それ以上の何かを待ち望んでいました。

待つ

急いで全世界に出て行って、キリストの来臨を早めるようにという時に、イエスは弟子たちに待つようにお命じになったのです。考えられますか？「見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」（ルカによる福音書 24:49）。わたしたちもまた緊急の時に待つ必要があることを理解しなければなりません。

「わたしたちは弟子たちがペンテコステの日に祈ったように、聖霊の降下のために熱心に祈るべきである。もし彼らがそれを当時必要としていたとすれば、今日わたしたちはさらにもっと必要としている。葬式のとぼりのような道徳的暗黒が地を覆っている。あらゆる種類の偽りの教理、異端、また悪魔的な欺瞞が人々の思いを誤り導いている。御霊と神の力なしには、わたしたちが真理を提示するために労しても無駄である。」³

しかしなぜ待つのでしょうか？イエスの来臨と全世界に福音を伝えることにははっきりとした相関関係があります。「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」（マタイによる福音書 24:14）。でしたら、なぜ待つのでしょうか？聖霊の目的は何でしょうか。わたしたちはその中のいくつかだけを見ていきます。残りはこの特別な読み物の中で見ていくことになります。

1. 魂に確信をもたらすのは何でしょうか？「それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。」（ヨハネによる福音書 16:8）。聖霊の働きなしに、だれかを救い主を必要としている罪人だと説得したり、納得させようとしても、わたしたちが好きなだけ説くことはできませんが、何も起こりません。
2. わたしたちが聖霊を必要としているのは、このお方が神からの特別な賜物をわたしたちに与えて下さるからです。「各自が御霊の現れを賜っているのは、全体の益になるためである。すなわち、ある人には御霊によって知恵の言葉が与えられ、....すべてこれらのものは、一つの同じ御霊の働きであって、御霊は思いのままに、それらを各自に分け与えられるのである」（コリント人への第一手紙 12:7、8 上句、11）。わたしたちはバランスのとれた方法で伝道の働きを成し遂げるために、教会の中でみなこれらの賜物を必要としています。

3. また、「上よりの力を授けられる」ために、待つ必要があるというのも真実です。聖霊はキリストの神聖にあずかることによって神の力を彼らに与えようとしておられます。「また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである」（ペテロの第二の手紙 1:4）。そして、神性にあずかると何が起こるでしょうか？神の恵みに驚くとき、何を目撃する特権があるでしょうか？「キリストとの協力によって、彼らはキリストのうちにあって完全であり、人間的な弱さのうちにあっても全能者の行為をなすことができる。」⁴

この文脈における全能の神の行為とは何でしょうか？明らかに人間の行為ではありません。ですから、これらの行為は実際には人間に由来するものではないため、人間が功績として認められることはありません。

「心とからだと魂を神にささげる者はだれでも体力と知力の新しい賜物をたえず受けるであろう。天の尽きることのない補給は彼らの思いのままに与えられる。キリストは彼らにご自身の霊の息吹き、すなわちご自身のいのちをお与えになる。聖霊は心と思いに働くためにその最高の能力をそそがれる。神の恵みは彼らの能力を幾倍にも大きくし、神の性質のあらゆる完全さが**救霊の働きにおいて**彼らの助けとして与えられる。」⁵

全能の御業は、個人の権力拡大のためではありません。魂の救いのためにあるのです。

信徒の科学

そして魂のどの行動が人を信徒にするのでしょうか？「すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる」（ローマ人への手紙 10:9）。わたしたちは屈服の行為が改心をもたらすことを知っています。このために、悪魔はわたしたちが創造主であり贖い主のご意志にわたしたちの意志を屈服させるまで決して逃げないのです。「そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう」（ヤコブの手紙 4:7）。この救いに至る献身は、イエスこそわたしたちが告白すべきメシヤであるという真の信仰から生まれます。

さて、イエスは3年半にわたって宣教され、人々はイエスがメシヤであることを知りました。なぜこれほど多くの人々がペンテコステの日まで待ったのでしょうか。なぜキリストの宣教活動において大規模な改宗が起こらなかったのでしょうか。彼らは皆、弟子たちと同じ機会を持ち、容易に証しすることができたはずですが。「初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言について」（ヨハネ第一の手紙 1:1）。しかし、彼らはそうしませんでした。なぜ弟子たちが一時に3000人にバプテスマを授けるときや5000人に授ける時まで待ったのでしょうか。（使徒行伝 2:41; 4:4 参照）

なぜその時になって初めて結果が見られたのでしょうか。「弟子たちはこのお方が真理の種をまかれた場所から自分たちの働きを始めるのであった。群衆がこのお方の言葉を聞き、それを信じていた。しかし、彼らにはこのお方を自分の救い主として認める道徳的な勇気がなかった。なぜなら、会堂から追い出されるからである。**聖霊が注がれたとき、キリストがまかれた種が花を咲かせ、実を結んだ。**勇気と希望が弟子たちに吹き込まれ、彼らは地の果てまで、よみがえられた救い主を宣布する用意ができた。」⁶

イエスは、このお方の名まえが意味する通り、神／人であられた。『見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名インマヌエルと呼ばれるであろう。』これは『神われらと共にいます』という意味である」（マタイによる福音書 1:23）。神性は人性に触れる必要があったため、「言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた」（ヨハネによる福音書 1:14）。

このお方は人となり、人として勝利しなければなりません。

「確かに、彼は天使たちを助けることはしないで、アブラハムの子孫を助けられた。そこでイエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において**兄弟たちと同じようにならねばならなかった**」（ヘブル人への手紙 2:16、17）。

神性—人性のうちに、このお方は罪のないお方でした。「あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがないだされたのは、銀や金のような朽ちるものによったのではなく、きずもしみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである」（ペテロの第一の手紙 1:18、19）。これはこのお方が罪のないお方であり、模倣するようにと模範を与えて下さったことを意味します。「あなたがたは、実にそうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった」（ペテロの第一の手紙 2:21、22）。これはこのお方にわたしたちの仲保者また助け主となる権利を与えました。「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたが、罪は犯されなかった」（ヘブル人への手紙 4:15）。

民はこれを皆、キリストのうちに見ることができました。このお方は罪に対する勝利の道を示すのでした。ではなぜ、彼らは待ったのでしょうか？他にも何か見たいものがあつたのでしょうか？人々は生来何か科学的なものを探し求めています。救いについても例外ではありません。「聖書は、神がお与えになった大教科書であり、大教育者である。真の科学の基礎は、ことごとく聖書の中に含まれている。聖書の研究によって、あらゆる方面の知識を得ることができる。特に、科学中の科学である、**救いの科学**がこの中に含まれている。聖書は、はかり知れないキリストの富の隠された鉱山である。」⁷

しかし、いったい何が科学を真に定義づけるのでしょうか？使徒パウロは「偽りの『知識（科学）』』に対して警告しました（テモテ第一の手紙 6:20）。つまり、科学であると主張しますが、**真実な基礎を欠く知識**です。真の科学は観察、実証、そして反復に基づいています。科学者は自らの研究方法を文書化し、各ステップを記録し、そしてそのプロセスを同じ結果で再現できるかどうかを検証します。ある結果が真に科学的であると言えるのは、別の人が同じ条件下で同じステップを踏んで同じ結論に到達できる時です。同様に、救いもまた理論以上のものでなければなりません。神の民の生活において実証可能で、再現可能なものでなければなりません。

イエスを再現する

イエスは聖なる生き方を示されました。今、それはまさに同じ方法に従う誰かによって再現されなければなりません。それを世界が信じるのです。理論は素晴らしいかもしれませんが。わたしたちはそれについて語り、評価することができます。しかし、それを再現すること、それが科学的です。では、何が再現されているのでしょうか？キリストは、異なる国籍、異なる文化、異なる性格、異なる精神性が一つになることを示しました。「世界が 1900 年前に必要としたもの、すなわち、キリストの黙示は今日も必要であり」⁸

それは人間の見解からは不可能です。人間の見解から可能なのは、次です。「民は民に国は国に敵対して立ち上がるであらう」（ルカ 21:10）。これは戦争ばかりではありません。サッカー大会や他の国際的な競争があるとき、何が起こるかを知らなさい。クリスチャンになるということは、まさにアブラハムがしなければならなかったことを意味します。「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい」（創世記 12:1）。これは、奇跡的なことです。全く人類にとっては未知のものでした。これこそ、本物です。その証明こそがキリスト教の力なのです。「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」（ヨハネによる福音書 17:21）。これが信徒にするということです。「様々な気質を持った人々の間に存在する調和と一致こそ、罪人を救うために、神がご自分

の御子をつかわされたことを示す最も強力な証である。この証を担うことがわたしたちの特権である。しかし、こうするためには、わたしたちが自らをキリストのご命令のもとにおかなければならない。わたしたちの品性はこのお方のご品性との調和のうちに形成されなければならない。わたしたちの意志はこのお方のご意志に明け渡されなければならない。そのとき、わたしたちは衝突する思想なしに共に働くのである。』⁹

用意できていること: あなたの十字架をとりあげなさい

もしわたしたちがこの現れを理解し、それを再現することなく満ちみちた聖霊の力を受けようとするなら、その力は誤った意図と目的のために用いられるでしょう。これが、弟子たちが準備が整ったときに前の雨が彼らに降った理由です。「五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、」（使徒行伝 2:1）。

この一つという意味は、みんながどの主題についても同じように考えたという意味でしょうか。「外見の形に関して言えば多くの事がらが聖書の中にすべて定義づけられているわけではなく、そのまま決着がつかないままに残されている。そして個人的な好みはしばしばあまりにもこれらの事がらに対して強く勧められてきた。すべてのことが、だれか信徒の体組織の他のだれかの習慣に合わないからといって、小さな相違が不平を生じさせたり、不一致の原因になったりしないようにしよう。しかるべき目的に達する手段や方法はいつも正確に同じとは限らない。わたしたちはどのように動くかに関して、理性と判断力を求められている。経験は現存する環境下でどの道を取るのが一番ふさわしいかを示すであろう。些細なことをめぐって争いが起こることのないようにしよう。もし互いが心の窓を天に向かって開き、地に向かっては閉じるなら、わたしたちの主イエス・キリストの愛と恵みの精神が心と心を結びつける。」¹⁰

一つになることの根源は、明け渡しという行為、つまり自分の器を完全に空にすることにあります。十字架は、人を処刑する最も非人道的な方法であり、常に力づくで行われました。十字架にかけられた時、逃れる術（すべ）はありませんでした。意志は失われ、名誉は失われ、自尊心も失われました。それはだれにとっても最悪の出来事でした。そして、イエスは次のように言われます。「自分の十字架を負ってわたしについて来るものでなければ、わたしの弟子となることはできない」（ルカによる福音書 14:27）。そうです、あの最も恐ろしく非人道的な処刑方法こそが、救いへの道であるがゆえに、わたしたちは受け入れるべきなのです。それは全てに値するのです。この世にとっての死は、信じる者にとっては命であり力なのです。「十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である」（コリント人への第一の手紙 1:18）。

わたしたちはその十字架そのものを大切に抱かなければなりません。「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇りとするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである」（ガラテヤ人への手紙 6:14）。

“「パウロにとって、十字架は最高の関心をはらうべき唯一の対象であった。パウロは、十字架にかけられたナザレ人に従う者たちを迫害していたさ中に捉えられて以来、ずっと、十字架をあがめつづけてきた。その時、キリストの死に表された、神の無限の愛についての啓示が彼に与えられたのである。そして、彼の人生に驚くべき変化が起こり、彼のすべての計画と目的が天と一致するようになった。その時からパウロは、キリストにある新しい人になった。罪人がみ子の犠牲の中に見られる天父の愛をあおぎ見て、神の感化力に従うとき、心に変化が起こり、それ以後、キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられると悟るようになることを、パウロは個人的な経験から知った。」¹¹ そして、わたしたちが十字架そのものを大切に抱くとき、何が起こるでしょうか。「わたしたちが十字架を掲げるとき、十字架が自分を掲げることを見出すであろう。」¹²

くびき

この十字架は何でしょうか。なぜ真の宗教の中心部分なのでしょう。イエスは次のように言われました、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従ってきなさい。自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう。」(ルカによる福音書 9:23, 24)。十字架を背負うことと自己否定は同一のものです。自己否定をする多くの人は、以前と比べて何も良くなっていません。なぜなら、ここでわたしたちが語っているのは、単に十字架を背負うことだけではないからです。わたしたちはイエスの十字架を負い、それを自分のものとしなければなりません。言い換えれば、この十字架を背負うことにおいて、わたしたちはキリストと一つにならなければならないのです。「すべて重荷を負って苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負って、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイによる福音書 11:28-30)。わたしたちはキリストと共にくびきを負うときのみ、休息を見出します。「くびきとは完全な明け渡しを意味する」。¹³

わたしたちがこの十字架を自らすすんで負うとき、どうなるでしょうか。「このお方はわたしのくびきは負いやしくと言われる。そしてわたしはそれを信じる。このお方はわたしの荷は軽いと言われる、これもまた信じる。あなたがキリストのくびきを負うとき、あなたのすべてのつづやきと不和はやむ。」¹⁴ これは、後の雨のための条件を完全に満たすことを意味しています。なぜなら、わたしたちは完全に自己を空にし、キリストに満たされるからです。「わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである」(ガラテヤ人への手紙 2:19, 20)。

後の雨

わたしたちは個々人として、また教会として自分たちに与えられている働きを終わらせるために力を必要としています。「キリストのくびきを負うことが、キリストの力を受ける第一の条件である。」¹⁵

十字架の後、弟子たちは二階の広間で 10 日間ともに集まりました。その後、力に満ちあふれました。なぜでしょうか？彼らは、それぞれが覇権（はけん）を争う人々の集団の中で、イエスと父なる神が人間において持つ結びつきを再現することができたのです。どのようにでしょうか？「心はすべての汚れを空にし、御霊が内住するために清められなければならない。それは罪を告白し、罪を捨てることによるのであり、熱心な祈りと神への献身による。こうして初期の弟子たちは、ペンテコステの日の聖霊の注ぎのために準備をした。同じ働きが、ただより大きな規模で、今なされなければならない。」¹⁶

なぜわたしたちは 100 年経った今も教会として存在しているのでしょうか。多くの人が神の召しに忠実に従い、今は墓の中で特別な復活を待ち望んでいます。永遠の契約を聞き、ついには天の雲に乗って来られる救い主を目にすることができるのです。

わたしたちがここにいるのは、個人としてではなく、教会として、もう一つの働きがなされなければならないからです。弟子たちは共に集まり、一致団結して神と互いに、自分の命を完全に明け渡し、自己を空にして、互いに告白しなければなりません。一体どうしてそんなことが可能なのでしょうか。「弟子たちは人々と接するのにふさわしくなるように、また、日常の交わりの中で罪人をキリストに導くような言葉を語るのにふさわしくなるように、とりわけ熱心に祈った。意見の不一致や優位を望む心をすべて捨て、クリスチャンの交わりの中で互いに親密になった。彼らは神に近づくにしがたい、ますます、キリストとの密接な交わりを許されたことに、すばらしい特権があるということを悟った。....

「こうした準備の日々は、深く心をさぐる日々であった。弟子たちは霊的な不足を感じ、救霊の働きをするのにふさわしい者となることができるように、聖油が注がれることを祈り求めた。彼らは自分たちのために祝福を求めたのではない。彼らは魂の救いという重荷を負っていた。」¹⁷

皆さんは、主への奉仕のためにすべてを捨てる覚悟ができるほど、自分の器を空にしましたか？改革運動の創設 100 周年を記念するこの特別な祈祷週を過ごすにあたり、主がわたしたちの心に十字架を自ら体験する力を与えてくださいますように。そうすることで、わたしたちは集団として団結し、仕事を成し遂げ、最終的に救い主のもとへ帰るために必要な力を得ることができますように。

引用:

1. 「天来の種まく者であられたキリストは、種をまくために外へ出られた。」キリストの実物教訓 13
2. 各時代の希望下巻 168
3. 教会への証 5 巻 158.
4. 各時代の希望下巻 378
5. 同上[強調追加]
6. サインズ・オブ・ザ・タイムズ` October 14, 1889.[強調追加]
7. キリストの実物教訓 83[強調追加]
8. ミニストリー・オブ・ヒーリング 114
9. 教会への証 8 巻 242.[強調追加]
10. イレ・G・柯イト 1888 年原稿 1698.
11. 患難から栄光へ上巻 64
12. 教会への証 8 巻 45.
13. 天国で 236.
14. イレ・G・柯イト 1888 年原稿 905.
15. 各時代の希望下巻 373
16. 牧師への証 507.
17. 患難から栄光へ上巻 31

食事に関する準備

ロリー・C・ドゥマゲット著

今日、世界中でベジタリアン食への関心が高まっています。最近の統計によると、世界中に 6 億 4000 万人以上のベジタリアンがいます。この傾向の高まりにより、アメリカだけでもレストランのほぼ半数が植物由来の食材を使った料理を提供しています。

人々がベジタリアンになる理由は様々ですが、宗教、倫理的な動機、健康、環境保護、経済的要因、肉食への嫌悪、文化的な理由などが挙げられます。

キリストの来臨を待ち望むわたしたちは、この最も待ち望まれている出来事への備えとして、長い間植物由来の食生活を取り入れてきました。この食生活は、腐敗した世界に生きる神の民に、神が愛情を込めて与えてくださったものです。これを取り入れることで、わたしたちがより健康になり、性格上の欠陥を克服できるようになるというのが、主の計画です。そのためには、わたしたち自身の多くの節制と忍耐が必要です。なぜ節制が必要なのでしょう。わたしたちが欲望に無頓着で、抑制のない生活を送るとしたら、どれほど危険なことでしょうか。

「不節制はほとんどその黎明期から世界ののろいとなってきた。ノアの息子たちはぶどう酒を過度にとつたために墮落し、優先順位の感覚をほとんど失って、彼の罪に続いたのろいは子孫たちから取り除けられることはなかった。

ナダブとアビウは聖職につく者であったが、ぶどう酒の使用が彼らの頭脳をあまりにも曇らせ、聖なるものと俗なるものの区別がつかなくなった。異火をささげることによって、神のご命令を無視し、その裁きによって殺された。

アレクサンダーは自分自身の精神を征するよりは、諸国を征するほうがはるかにたやすいことを見出した。諸国を打ち破った後に、この偉大と呼ばれた人は食欲の放縦を通して倒れた。不節制の犠牲者であった。」¹

皆さんはどう思いますか？皆さんにとって、世界を征するのと、自己を征するのと、どちらのほうが良いですか？聖書はこのことについてなんと述べているのでしょうか。「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる」

(箴言 16:32)。ですから、パウロは信徒たちに次のように述べました。「あなたがたの寛容（節度）を、みんなの人に示しなさい。主は近い」（ピリピ人への手紙 4:5）。

定義上、節制とは、食べ過ぎたり飲み過ぎたり、簡単に怒ったりしないように、自分の行動、考え、感情を常に制御する習慣のことです。預言の霊は次のように明白に説明しています。「真の節制はわたしたちに有害なものはすべて廃し、健康的なものとは分別をもって使用することを教える。」²

節制と救いの問題には関係があるのでしょうか。万事における節制は、わたしたちの聖書的な教えの一部でしょうか？

御霊の実の一つ

「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない」（ガラテヤ人への手紙 5:22、23）。

聖化のはしごの四段目

「それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛をくわえなさい」（ペテロの第二の手紙 1:5-7）。

わたしたちの救いにおける重要な役割

「節制の問題は、あらゆる角度から、わたしたちの救いの働きにおいて重要な位置を占める。悪い食習慣のゆえに、世界はますます不道徳になっている。」³

1. 食事における節制

節制に関して考慮すべき点の一つは、食生活です。聖書の中で、食生活における節制の実例としてどのような物語が挙げられますか？ すぐに思い浮かぶのはダニエルの例です。ダニエルは実際には何を拒んだのでしょうか？

「ダニエルは王の食物と、王の飲む酒とをもって、自分を汚すまいと、心に思い定めたので、自分を汚させることのないように、宦官の長に求めた。そこでダニエルは宦官の長がダニエル、ハナニア、ミシャエルおよびアザリアの上に立てた家令に言った。『どうぞ、しもべらを十日の間ためてください。わたしたちにただ野菜を与えて食べさせ、水を飲ませ、』」（ダニエル書 1:8、11、12）。

神はわたしたちが健康であることを望んでおられます。このお方はわたしたちが身体的にも霊的にも反映してほしいと思っておられます。これこそ創造後、神がアダムとエバに植物を基礎とした食事をお与えになった理由です。「神はまた言われた、『わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与え

る。これはあなたがたの食物となるであろう』（創世記 1:29）。

「われらの先祖たちはエジプトにいたとき、あなたのくすしきみわざに心を留めず、あなたのいつくしみの豊かなのを思わず、紅海で、いと高き神にそむいた。...しかし、彼らはまもなくそのみわざを忘れ、その勧めを待たず、野でわがまま欲望を起こし、荒野で神を試みた。」「おのが欲のために食物を求めて、その心のうちに神を試みた」（詩篇 106:7、13、14; 78:18）。

もはや肉食さえ安全ではない重要な理由は、動物たちが様々な病気に苦しみ、苦痛に呻いているからです。エレミヤ 45 章 5 節（欽定訳）で預言者は、神が「すべての肉なる者に災いをもたらす」と預言しました。そして、主は慈悲深く、わたしたちを多くの病気から守るための食事計画を与えてくださいました。今こそ、神が人間に与えてくださった本来の食生活に戻るべき時です。

「野菜と果物と穀類が、我々の食事を構成すべきである。一かけらの肉も、わたしたちの胃に入れてはならない。肉食は不自然である。わたしたちは人間の創造における神の最初の御目的に戻るべきである。」⁴

深刻な訓告

「食欲の放縱に関して真理を知っている両親は、自分の子供たちが食べすぎたり、肉食や感情を興奮させるような食べ物をとることを許すべきではない。人は何を食べるかで構成されている。肉を食することは、低俗な傾向を強め、それらが活動するように強める。親は自分の子供たちの道徳的および身体的健康を脅かすものをすべて排除すべきである。彼らは食卓に肉をのせてはならない。」⁵

荒野での模範

「兄弟たちよ。このことを知らずにいてもらいたくない。わたしたちの先祖はみな雲に下におり、みな海を通り、みな雲の中、海の中で、モーセにつくバプテスマを受けた。また、みな同じ霊の食物を食べ、みな同じ霊の飲み物を飲んだ。すなわち、彼らについてきた霊の岩から飲んだのである

が、この岩はキリストにほかならない。しかし、彼らの中の大多数は、神のみこころにかなわなかったので、荒野で滅ぼされてしまった。これらの出来事は、わたしたちに対する警告であって、彼らが悪をむさぼったように、わたしたちも悪をむさぼることのないためなのである。」「これらの事が彼らに起こしたのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでわたしたちに対する訓戒のためである」（コリント人への第一の手紙 10:1-6, 11）。

荒野では、「多くの寄り集まりびとは欲心を起し、イスラエルの人々もまた再び泣いて言った、「ああ、肉が食べたい。」（民数記 11:4）。「おのが欲のために食物を求めて、その心のうちに神を試みた」（詩篇 78:18）。

彼らの要求に対して、主はどのようにお答えになったでしょうか。

「あなたがたは身を清めて、あすを待ちなさい。あなたがたは肉を食べることができるであろう。あなたがたが泣いて主の耳に、わたしたちは肉が食べたい。エジプトにいた時は良かったと言ったからである。それゆえ、主はあなたがたに肉を与えて食べさせられるであろう。あなたがたがそれを食べるのは、一日や二日や五日や、十日や二十日ではなく、一か月に及び、ついにあなたがたの鼻から出るようになり、あなたがたは、それに飽き果てるであろう。それはあなたがたのうちにおられる主を軽んじて、その前に泣き、なぜ、わたしたちはエジプトから出てきたのだらうと言ったからである』...その肉がなお、彼らの歯の間にならなくて食べつきさないうちに、主は民にむかって怒りを発し、主は非常に激しい疫病をもって民を撃たれた。これによって、その所の名はキプロテ・ハツワと呼ばれた。欲心を起こした民を、そこに埋めたからである」（民数記 11:18-20, 33, 34）。

今日わたしたちはどうか？

「肉食、茶、コーヒー、そして濃厚で不健康な調理の悪に関して教えを受けてきた人々は、また犠牲をもって神と契約を結ぼうと決心した人々は、不健康だとわかっている食物に対する食欲にふけり続けることはない。…これは神の民がそのみ前に完全な民となることができる前に成し遂げられなければならない働きである。」⁶

「故に人は、罪に満ちた不節制によって自分たちの身体を汚れたものになし得るのであって、もしも汚れていれば、霊的な礼拝者となるのに不適當であり、天国に入る価値がないのである。神が憐れみをもって健康改革の上を与えて下さった光を大切にすれば、人は真理によって清められ、不死に適する者とされるのであるが、もしその光を無視し、自然の法則を犯して生活するならば、罰を受けなければならない。」⁷

「誤った食欲に溺れることによって、非常に多くの罪が行われている。」⁸ 特に歪んだ食欲はどのように描かれているでしょうか。

「肉食を続けることによって、確かな害が身体に及ぼされる。墮落し、歪められた食欲以外に、それに対する言い訳はないのである。」⁹

「これほど多くの光が与えられた後、神の民が悪習慣を愛し育て、わがままな生活をして改革することを拒むならば、必ず死の結果に苦しむのである。もしどんな犠牲を払ってでも誤った食欲を満足させようとするれば、神は彼らの不節制の結果から奇跡的に救っては下さらない。『彼らは苦しみのうちに伏し倒れる』¹⁰

肉を食べることは致命的な病気の原因となる

預言の霊からの警告を発する言葉はさらに肉食がわたしたちの健康に危険であることを説明しています。「食肉が、ある家族の食卓の主な品目となっており、ついに彼らの血液はがんや結核症の体液で満たされる。彼らの体は自分の食べるもので構成されている。しかし、苦しみと病気がおとずれるとき、それをみ摂理の苦悩だと考えるのである。」¹¹

エレン・ホワイトの時代には、肉食が体に致命的な病気を引き起こす可能性があることを多くの医師は知りませんでした。しかし、今日では科学によってそれが証明されています。例えば、肉を焼いたりグリルしたりすると、肉の脂肪が溶けて燃えている炭に落ち、煙が発生します。この煙はメチルコラントレンとベンゾピレンを生成します。ベーコンやハムなどの塩漬け肉にはニトロソアミンが含まれています。体内に摂取されると、細胞の DNA を破壊し、細胞は死滅

するどころか急速に増殖し、嚢胞（のうほう）や腫瘍（しゅよう）を形成します。肉にはまた、コレステロールという形で飽和脂肪酸も含まれています。¹²

「世界保健機関（WHO）は、ハム、ベーコン、サラミ、フランクフルトなどの加工肉をグループ 1 の発がん性物質（発がん性が知られている）に分類しています。これは、加工肉ががんを引き起こすという強力な証拠があることを意味します。加工肉の摂取は、大腸がんや胃がんのリスクを高めます。牛肉、羊肉、豚肉などの赤身肉はグループ 2A の発がん性物質に分類されており、おそらくがんを引き起こす可能性があります。」¹³

肉食以外にも、預言の霊は、健康を損なう特定の食習慣や誤った生活習慣について助言を与えています。これらは信仰の告白の試金石ではありませんが、健康を保つために従う価値はあります。

2. 果物と野菜を一度の食事と一緒に取ること; 良い組み合わせではない

「野菜と果物は同じ食事ととるべきではない。一回の食事ではパンと果物を、次の機会にはパンと野菜を用いなさい。」¹⁴

科学者たちは、果物と野菜を消化するために胃が異なる酵素を使うことを発見しました。果物は他の食品よりも消化が速いため、通常は単独で空腹時に食べるのが適切です。しかし、果物と野菜（それぞれ消化に時間がかかる）を混ぜると、ガスが発生する可能性があります。ジュースでも同様の問題が起こり、鼓腸、胸やけ、さらには片頭痛を引き起こすこともあります。¹⁵

3. 食間に食べることを避けなければならない

「通常の食事を取った後は、胃に五時間の休息を与えないといけない。次の食事まで一かけらの食物も入れてはならない。その間、胃はその働きを行い、それから初めて、更に食物を受け入れる状態になるのである。」¹⁶

「ほとんどの人は、一日に三食よりは二食のほうがよりよい健康を享受する。他方、現状では夕食時に何か食する

ものが必要かもしれない。しかし、その食事は非常に軽いものであるべきである。」¹⁷

今日科学がいかに頻繁に食べることの危険を発見しているかは興味深く注目を引きまます。「食事の頻度とタイミングが健康と疾患に及ぼす影響は、長年にわたり関心を集めてきました。疫学的エビデンスは、食事頻度が高いほど疾患リスクが低いことと関連していることを示唆していますが、実験的試験では相反する結果が出ています。さらに、最近の予測研究では、食事頻度が高い（1日6食以上）場合、低い（1日1~2食）場合と比較して、疾患リスクが有意に高まることが示されています。」¹⁸

最近の医療従事者は断続的な断食の価値を理解しています。「オートファジーは細胞レベルで機能する基本的なプロセスで、老廃物の除去、損傷の修復、細胞の回復と若返りを行います。16時間の断食後、体は悪性細胞への攻撃を開始します。体は常に悪性細胞や組織をエネルギー源として消費します。その結果、体は細胞の残骸や異常細胞（がん細胞など）を除去する機会を得ます。」¹⁹

「朝食と昼食のみを摂ることで、体重、肝臓への脂肪沈着、空腹時血糖値の低下、インスリン感受性の向上が見られました。これらの結果は、血糖値の健康上の懸念事項に関して、1日を通して6回の少量の食事よりも、朝食と昼食を多めに摂る方が有益である可能性を示唆しています。」²⁰

4. 食べ過ぎを避ける

「過食は胃にどんな影響を与えるであろうか。胃は結果として衰弱し、他の消化器官も弱くなり、病気とこれに続くすべての災いをもたらされるのである。」²¹

メイヨー・クリニックによると、過剰な炭水化物やカロリーはトリグリセリドに変換され、高血圧を引き起こし、動脈硬化や脾臓の炎症を助長します。

過食は、低俗な性質を強め、良心を鈍らせる大きな悪です。この傾向に打ち勝つために、「あなたがもし食をたしなむ（食欲に屈する）者であるならば、あなたののどに刀をあてよ」（箴言 23:2）。聖霊の助けをもって、節制

を行うと固く決心することによってのみ、これを行うことができます。

5. 万事における節制

「あなたがたの寛容（節度）を、みんなの人に示しなさい。主は近い」（ピリピ 4:5）。

「気をせきたてて怒るな。怒りは愚かな者の胸に宿るからである」（伝道の書 7:9）。

「だから、飲むのにも食べるのにも、また何事をするのにも、すべて神の栄光のためにすべきである」（コリント人への第一の手紙 10:31）。

「すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである」（コリント人への第一の手紙 9:27）。

「この世の生活で万事において節制することが教えられ、実践されるべきである。飲食、睡眠、着衣における節制は、宗教生活の壮大な諸原則の一つである。」²²

毎日十分な水を飲むべきです。水分不足は腎臓を損傷し、体の機能を低下させます。人工着色料、炭酸、砂糖たっぷりの水やアルコールではありません！歴史上もっとも賢明であった王が次のように説明しています、「酒は人をあざける者とし、濃い酒は人をあばれ者とする、これに迷わされる者は無知である。」（箴言 20:1）

わたしたちも神の誉れと栄光のために服装を整えなければなりません。わたしたちは日々神と共に歩むと公言する者です。イエスにもっと近づきたいなら、身をきちんと覆う必要があります。セラピムとケルビムは神の御前で身を覆います。わたしたちの服装の基準は申命記 22 章 5 節にあります。睡眠はどうでしょうか？睡眠に最適な時間は午後 10 時から午前 6 時の間です。睡眠不足はどのような危険をもたらすのでしょうか？

「アイオワ州立大学の新しい研究によると、夜間に数時間睡眠を失った人は十分な休息をとっている人よりも怒りやすく、イライラする状況に適應する能力が低いことが明らかになった。」²³

教会や家族で問題を抱えると、わたしたちはつい他人やパートナーのせいにしてしまいがちですが、根本的な原因は往々にして自分自身の節制のなさにあります。そのた

め、批判したり、噂話をしたり、そして最悪なことに、許さない心を抱いたりする傾向があります。新しい人生を歩む今、自制心を大切にしましょう。他人を責めるのではなく、節度を保てていない部分を見つめ直しましょう。もしかしたら、きちんと食事を摂っていないのかもしれませんが。お腹はいっぱいなのに、細胞は飢えているのです。なぜでしょうか？それは、バランスの取れた食事を摂っていないからです。空腹の人は怒りっぽいということを忘れないでください。十分な水を飲み、十分な睡眠をとって、感情のバランスを保ちましょう。

6. 節制と後の雨

「食習慣が、健康、品性、この世界での有用性、そして、永遠の運命にどれほど深い関係をもったものであるかを自覚している者は少ない。」²⁴

「神の民は万事における節制の意味を学ばなければならぬ。…彼らが真の聖化と神のみ旨に調和することを本当に理解することができる前に、彼らは神との協力によって、悪習慣と悪い慣習に対して勝利を得なければならない。」²⁵

“

「わたしたちのうちだれ一人として、品性に一つのしみや汚れがある間は、神の印を受けることはない。自分の品性にある欠点を治療すること、魂の宮をあらゆる汚れから清めることはわたしたちに任されている。そうすれば、ペンテコステの日に弟子たちの上に前の雨が降ったように、後の雨がわたしたちの上に降るのである。」²⁶

結論

わたしたちは今、春の雨を受けるためには、神が要求される聖化を経験しなければならないことを理解しています。この聖化を達成するには、あらゆる罪深い食習慣とあらゆる罪深い生活様式を克服しなければなりません。

罪深い人間であるわたしたちは、自分の努力だけでこれを達成することはできません。「生涯を通してふけてきた習慣、教育してきた食欲を捨てることは最も難しいことであ

る。不節制の悪魔はたやすく克服できない。それは巨人の力を持ち、克服するのが難しい。」²⁷

唯一の選択肢は、イエスの招きに答えることです。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ 11:28)

わたしたちは自分の分をなし、そしてイエスにわたしたちのうちで完全に働いていただくべきです。「恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、**その願いを起こさせ、かつ実現に至らせる**のは神であって、それは神のよしとされるところだからある。」(ピリピ人への手紙 2:12、13)

確かに、自己放縦は克服するのが難しいものですが、簡単です。一人では難しいですが、イエス様が助けくださるなら簡単です。あなたは本当に征服者になりたいですか？イエス様があなたを助けてくださると信じますか？わたしたちは教会としてこの地球上で約 100 年間存在してきました。わたしたちは疲れ果て、だれもが故郷に帰りたと思っていますよね？ですから、神が与えてくださる力を通して、神のすべての教えに協力し、イエス様がすぐに天の雲に乗ってわたしたちを故郷に迎えに来てくださるよう、熱心に祈らなければなりません。

引用:

1. クリスマス節制と聖書の衛生 28, 29.
2. 節制 138.
3. 伝道 265.
4. 食事と食物に関する勧告 354, 355
5. パシフィック・エコー・レビュー 1902 年 10 月 9 日
6. 引退生活 129.
7. 食事と食物に関する勧告 65
8. 同上 39
9. 同上 384
10. 同上 21. [強調追加]
11. 教会への証 3 巻 563.
12. <https://www.sciencedirect.com/topics/earth-and-planetary-sciences/nitrosamine>
13. <https://www.cancerouncil.com.au/1in3cancers/lifestyle-choices-and-cancer/red-meat-processed-meat-and-cancer/>
14. サイン・オブ・ザ・タイムズ 1897 年 9 月 30 日
15. <https://timesofindia.indiatimes.com/life-style/health-fitness/diet/fruits-you-should-not-have-together/articleshow/58459356>
16. 食事と食物に関する勧告 164
17. クリスマス節制と聖書の衛生 58.
18. <https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC6520689/>
19. <https://drpompa.com/fasting-diet/fasting-autophagy>
20. <https://lifepa.com/diet-detox/diet/6-meals-a-day>
21. 食事と食物に関する勧告 91, 92
22. チャイルド・ガイド 394.
23. <https://www.healthline.com/health-news/why-a-lack-of-sleep-can-make-you-angry>
24. 人類のあけぼの下巻 211
25. チャイルド・ガイド 396.
26. 教会への証 5 巻 214.
27. チャイルド・ガイド 408.

火のような試練から出て

リビウ・トゥドロイウ著

この特別な祈祷週を、歴史的な考察を通してさらに豊かにする、という恵まれた特権に恵まれています。特に今、多くの方がわたしたちの運動の 100 周年を熱烈に祝う一方で、わたしたちの霊的な力学について深い懸念を表明する人々もいます。

個人として、また信徒たちの集団的な体組織として、わたしたちの霊的状态の脈動を真に測るためには、まず、すべての良い変化の源、すべての高潔な行いの本質、そして「道であり、真理であり、命である」とご自身を啓示された方を認めなければなりません。この方を完璧な模範としておかなければ、わたしたちは自分の霊的状态の現実を見極めることはできません。

わたしたちの評価は、わたしたちが自分自身を見るレンズによって異なります。わたしたちはこのお方の真理を求めて、救い主の目を通して見るか、あるいは、わたしたち自身の利己的な人性という欠陥のあるレンズを通して見るかのどちらかです。それはあまりにもしばしば自分の欠陥に対して盲目で、品性に関してははられた評判に頼ってその先へ進むことができません。しかし、評判とはわたしたちのアイデンティティに関して人々の心に残る印象です。品性こそ、わたしたちが真に何者であるかについての神の現実なのです。

だからこそ、真理は最も大切なのです。ほとんどの人が知っているように、**真理**は三つの段階を経ます。

まず、激しい反対を受け、次に嘲笑され、そして最後に、普遍的に受け入れられます。この現在進行中の「議論」は、いくつかの選択肢を提示しています。100 年間の**成功を祝うか**、それとも失望も交えた 100 年間の**「成果」を振り返るか**です。これは、わたしたちの分析の次の点につながります。

1914 年から 1945 年にかけて、多くの再臨信徒は、当時激化していた世界大戦が文明の終焉を告げ、主イエス・キリストの差し迫った再臨の舞台を整えるという強い確信を抱いていました。1913 年の秋から 1914 年の初めにかけては、混沌とした暴力に満ちた世界の戦場は、誠実で正直な魂が永遠の準備を整える場所ではないと、さらに多くの人が信じるようになりました。実際、この常識的な確信は、キリストの再臨を待ち望む教会員だけでなく、多くの無神論者、不可知論者、そして様々な宗教を实践する人々の間でも共有されていました。

殉教者たちが流した血は、この運動の正当性を否定する懐疑論者を納得させるには十分ではなかったのでしょうか。

「力に携わって」217 ページの中で、聖書学者ウォルター・ウイंकはこう述べています。「ローマ帝国の残忍な弾圧に非暴力で抵抗した教会は、奇妙なことに勝利を収めました。…**しかし教会が払った代償は、帝国維持の手段として暴力を受け入れたことでした**。福音から非暴力が排除されたことで、アーチの要石が吹き飛ばされ、キリスト教は個人の救済と、怒りに満ち恐ろしい神が嫉妬深く守る来世を信奉する宗教へと崩壊しました。そして、そのシステム全体は、歴史における神の働きの選民とみなされる世俗の支配者たちの直接の支援を受けたエリート司祭団によって綿密に管理されました。」¹

戦争戦略書『戦争の力』の著者カール・フォン・クラウゼヴィッツは、**戦争の概念を敵に我が意を強制する武力行為と捉え、さらに戦争は原始的な暴力、憎悪、敵意という、盲目的な自然力と見なすべきグロテスクな三位一体として現れると説いた、最も適任の軍事的天才の一人と言えるでしょう。**

しかし、この現実直面して、進歩主義神学者たちは、イエス・キリストの人格と戦争の暴力をいかに調和させようと躍起になっています。

支配力を失うというプレッシャーのもとで、カヤパといった指導者たちは精神的にいらだって次のように宣言しています、「そこで祭司長たちとパリサイ人たちとは、議会を招集して言った、『この人が多くのしるしを行っているのに、お互は何をしているのだ。もしこのままにしておけば、みんなが彼を信じるようになるだろう。そのうえ、ローマ人がやってきて、わたしたちの土地も人民も奪ってしまうであろう。』（ヨハネによる福音書 11:47-48）

イエスは戦争に関与したことはなく、いかなる個人や集団に対しても肉体的、精神的に虐待を加えたこともありませんでした。当時流行していた戦争文化に直面して、イエスはそのような危機の時代における人間の行動を宣言しました。：『隣り人を愛し、敵を憎め』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、あなたをのろう者を祝福し、あなたを憎む者に善をなし、あなたを蔑み、迫害する者のために祈れ。』（マタイによる福音書 5:43 欽定訳）。

ですから、アドベンチストの先駆者たち、そして後にキリストの模範に従った宗教改革者たちは、そのような人格と敵への愛を持つことは、自由、投獄、拷問、そして死さえも伴うことを理解していました。イエス様を真に愛したアドベンチストたちは、信仰を声に出して表明するために払わなければならない代償を知っていました。

夏には誰もが拍手喝采を浴びます。しかし、冬、つまり危機の時には、ただ信仰を声に出して言うだけでも、社会全体の承認を失う可能性があります。その時こそ、わたしたちの信仰は限界に達し、かつての友人が激しい敵に変わるのです。

ビュー・アント・ハラット 1865年5月23日のセブンスデー・アドベンチストの世界総会の第三回の年次報告書の中で、全般的な見解は以下の通りでした。「我々は戦争行為と流血行為へのあらゆる参加を拒否せざるを得ない。しかし、1914年から1918年にかけての第一次世界大戦中、セブンスデー・アドベンチスト教徒のほとんど——ある推計によれば98%——は戦闘に加わることを余儀なくされ、世界的な殺りくマシンに加わった。しかし、そのような行為が自らの信条に反することをはっきりと承知していた。

ごく少数——わずか2%ほど——は異なる道を選んだ。彼らはキリストを捨て、神の戒めを破るよりも、社会から忌み嫌われる追放者となることを選んだ。キリストの霊の揺るぎない一部に満たされた彼らは、時の試練に耐え、永遠の国であるあの国の美しさに目を留めていた。彼らは、戦争の哲学が「敵を愛しなさい」という戒めと決して一致しないことをはっきりと認識していた。」

神の律法とカエザルの律法の避けられない衝突は、激しい迫害へとつながり、信者たちの決意を試す厳しい現実となりました。

時と空間はしばしば、互いに面識も憎しみも持たない若者たちを戦いへと引きずり込み、少数の老人たちが立てた大義のために殺りくを強いてきました。老人たちは確かに互いを知っており、深い敵意を抱いてはいましたが、自らは決して武器を取る勇気はありませんでした。

この思想が神の御性質に完全に反するものであることは容易に理解できます。それは罪の起源そのものを体現しています。知性ある存在に、自らの良心に反することを強要したり、強要したりする行為は、天における大戦争の始まり、すなわち神の自由に対する強制と反抗に根ざした反乱の始まりを映し出しています。

危機における勇気

夏にはすべての木々が緑に染まりますが、冬が訪れると、常緑樹だけがその色を保ちます。同様に、精神的、社会的に危機に瀕した時こそ、わたしたちの真の姿が明らかになります。炎がわたしたちの足元に触れた時、初めてわたしたちは真の自分を発見するのです。

プレッシャーの重さの下でよめく人々を、「お天気クリスチャン」と呼ぶことができるでしょう。

そのような試練の瞬間が訪れるまでは、世が抵抗しない時は真理を擁護するのは容易です。しかし、迫害が醜い顔を出す時、信仰告白のために代価を払おうとする人はなんと少ないことでしょう。イエス様がエルサレムの丘陵でパンを配っていた時、多くの人々がイエス様に従いたがりました。しかし、12かごの余った恵みを持ち帰った人々の中で、天と地の間で十字架につけられた謙虚な人の子の傍らに立つために、自らの評判を危険にさらそうとする人はなんと少ないことでしょう。

弟子たちは、イエス様が天からの力と権威を力強く示して、ご自身が宇宙の神であることを明らかにされなかったことに深く失望しました。彼らはイエスがイスラエルの勝利の王として現れたなら喜んでしょうが、「ローマ政府への反逆」の罪で有罪とされた犯罪者として現れたなら喜ばなかったでしょう。²

ヨブ記を、その試練に直面することなく読むことと、幾日もの断食と祈りの後、激しい苦難の中で空腹のまま読むこととは全く別物です。キリストのために歌うことと、キリストのために死ぬことは別物です。プールで泳ぐことと、海で流れに逆らって泳ぐことは全く別物です。

困難な時代は強い人を生み出し、強い人は良い時代をもたらします。しかし、良い時代は弱い人を生み出し、弱い人は困難な時代をもたらします。ですから、100年の歴史を経て、わたしたちはアイデンティティの危機に直面し、新たな課題に直面し、教会の門の前で新たなイデオロギーの潮流が「恥を振りかざす」のを目の当たりにしています。

困難な時代に生まれた改革者の世代は、次の世代へとバトンを渡しました。それは良い時代に生まれ、強い人々によって築かれた世代です。しかし今、世界は弱い人々によって導かれているように思われ、その結果、再び困難な時代がわたしたちを襲っているのです。新しい世代の改革者たちは、かつて経験したことのないほど巧妙な誘惑や挑発に直面しています。過去の世代は忘れ去られた墓地に埋葬され、安らかに眠りにつきます。一方、彼らの子や孫たちは、先祖たちの苦闘をほとんど覚えていません。

2000年以上もの間、ローマと世界は「皇帝」を通して、忠実なキリスト教徒たちに、イエスへの信仰を曲げ、神の戒めを破るよう迫ってきました。キリストの時代以来、支配的な法はローマ法でした。「Non licet es vos!（汝らは存在することを許されない!）」という厳しい布告の下、初期のキリスト教徒たちは、愛するキリストのために、名声、評判、安楽、そして最終的には命を犠牲にしました。今日、「現代の皇帝」は同様の要求を突きつけています。それは、無条件の服従、さもなければ存在にふさわしくないとされる、というものです。こうした圧力の下、セブンスデー・アドベンチスト教会における宗教改革が生まれたのです。

神の命という賜物は、確かに個人的な「十字架」とセットで与えられます。神は十字架を与え、釘を打つのは人間です。そのため、歴史には二つのバージョンがあります。一つは迫害者たちが残酷なインクで書き記したもので、もう一つは殉教者たちが自らの血で書き記したもののなのです。

正直な評価

改革の先駆者であるわたしたちの先祖たちは、この世のつかの間の栄光よりも真実を重んじ、自らの血を流して歴史を刻みました。ルーマニアのような共産主義国では、わたしたちの民は基礎教育、自由、そして人権を奪われました。あの暗黒の時代には、多くの権力者が「あと数年待てば、あなた方は消え去るだろう」と豪語しました。しかし、神は常にご自分の民を保護してこられました。そして最後には、抑圧者たちが自らの傲慢さによって沈黙し、姿を消したのです。

輝くために、言葉や行いで他人を攻撃したり批判したりする必要はありません。キリストの御性質をわたしたちの内に輝かせましょう。そうすれば、「誰が誰よりも聖なるのか」という議論は終わります。わたしたちがどこへ行っても、天国の雰囲気はわたしたちと共にありますように。そうすれば、人々はわたしたちの運動の存在に気づくだけでなく、善と悪の違いを理解するでしょう。人々はわたしたちの存在が社会に与える影響を感じるでしょう。そうしてこそ、わたしたちは変化をもたらすことができるのです。現実を否定するのか、それとも癒しを受け入れるのか、それはわたしたち次第です。成功は、わたしたちが登りきった山の高さではなく、頂上にどれだけの人々を連れて行ったかによって測られることを忘れてはなりません。

単なる数字で判断すると、教会の成長は失敗のように見えるかもしれません。しかし、量ではなく質で判断すれば、教会の働きに対する見方は全く変わります。ゼパニヤ書 3 章 12 節で、主は最後の世代の残りの者たちにこう約束しています。「わたしは、あなたの中に、苦しむ貧しい民を残す。彼らは主の御名に信頼する。」この言葉は、世の終わりに神の民が、勝利の叫びを上げる大勢の勝利の群衆ではなく、むしろ、主の御名にのみ信頼する、苦しむ謙虚な集団であることを明らかにしています。

ご覧のとおり、キリストの再臨には壮大さや派手な力の誇示はありません。その代わりに、忠実な残りの民がいます。彼らは苦しみ、社会から注目されず、富や数といった世俗的な基準では目立たない存在です。しかし、彼らこそが主の真理の光を携えているのです。

地平線には何があるか？

主の栄光がわたしたちの上に昇るときのみ、わたしたちは自分自身を嫌悪し、わたしたちの内なる罪深い性質によって育まれた長年の自己満足を放棄するに至る成熟した完全な性格を示すことができます。「キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。」³

過去を振り返るとき、キリストは御自身の民の試練と苦しみの中に常に共にいてくださったと断言できます。世界のあらゆる場所で兄弟たちが残酷な反対に直面した時、イエスはそこにおいて、彼らの忠実さを目の当たりにし、彼らの上に栄光を輝かせました。あらゆる法廷で、遠く離れた牢獄のあらゆる暗い独房で、イエスは花嫁の傍らに立っていました。全体主義政権は深い苦しみを与え、教会員を投獄し、沈黙させ、彼らの自由と表現の自由を奪ってきました。改革運動は真理のために世代を超えて血を流してきました。神の律法を人間の定めよりも優先させたことで、残りの民は逆境の中心に立たされ、この世で権力を振るう者たちの憤りを買っています。

わたしたちが思い描くどんな功績も、イエスの御手を動かして聖域での執り成しの業を終えさせ、わたしたちに完全に反映されたイエスの御性格を認めさせるほどには、天を満足させていないようです。わたしたちは今も地球上において、世界の他の地域の人々と同じ苦難、同じ病院、同じ病気、さらには同じ墓地を共有しています。そこには、若い役人がマタイ 19:20 に尋ねた質問を連想させる何か大切なパズルのピースが欠けています。「ほかに何が足りないのでしょうか。」

神の数学

わたしたちは会員の数を数えることにこだわりすぎ、数を神聖視する傾向があります。しかし、主は、ほんの少数の者でも勝利は得られることをわたしたちに思い出させてくださいます。

ドラの谷の統計報告を考えてみましょう。三人の忠実な人が広大なバビロニア帝国に立ち向かいました。獅子の穴では、ダニエルという一人の人がメディア・ペルシャ連合軍に立ち向かいました。エステル女王の時代には、モルデカイとエステルが数え切れないほどのユダヤ人迫害者たちに立ち向かいました。

そしてカルバリの丘では、キレネ人シモン、百人隊長、そして盗賊が十字架上で、容赦なく怒り狂う群衆と対峙しています。しかし、これらの瞬間それぞれにおいて、これらの孤独な人物たちが真の多数派となったのです。

私は、数字は海上の船や箱舟の存在を示すだけであることを学びました。神の臨在なしに数字だけでは大した意味を持ちませんが、その数字に救い主が加わると、計り知れない意味を持つようになります。一人の人間と神が一つになれば、多数派が生まれる。

神の靈感を受けた言葉はこう述べています。「神は子らを持っておられる。彼らの多くはプロテスタント教会にいる。そして数多くの者がカトリック教会のなかにいる。彼らは多くの光の中に歩んでいない安息日遵守アドベンチストたちよりも、自分たちの持っている光に従うことに真実で、自分たちの知識に対して最善を尽くしている。」⁴

エリヤは非常に優秀な秘書でした。彼は統計報告書の中で会員数の増加を一人と数えました。しかし、それは教会内部の統計報告書でした。歴史は、教会外部の統計報告書も記録しておくべきだと教えています。神は教会外部の統計報告書の秘書でした。エリヤは教会内部の統計報告書の秘書でした。教会内部の会員数は一人でしたが、教会外部の会員数は7,000人でした。

内部の秘書であるエリヤは、天の秘書が7,000人という数字を報告したことに大変驚きました。エリヤが抱えていた問題は、単に数の問題だけではなく、おそらくもっと重要なのは、なぜ神が預言者である彼にこの奥義を明らかにされなかったのかということでした。このように、預言者でさえ、神が明らかにしない限り、神の御心とコインの裏側を理解することはできないのです。

今日、わたしたちは預言者エリヤと同じ過ちを犯しがちです。私は、改革運動が預言者エリヤを代表していると心から信じています。そのため、わたしたちはこの世に残された唯一の民であり、エリヤが考えたように、主に忠実なのは自分たちだけだと考えがちだと思います。

しかし、わたしたちにはまだ数えられていない兄弟姉妹がいます。そして、彼らが世界中からやって来て、改革運動が信じる真理に加わるのを見る時、わたしたちはきっと大きな驚きを感じるでしょう。

聖霊の力によって神の御業が成し遂げられる頃には、わたしたちの中には既にこの世を去っている人もいます。そのメッセージは、人々の心に抱くものに依って人々を分裂させ、方向づけるでしょう。リベラルな行動をとる者もいれば、冷徹で正統的な律法主義に囚われた者も、狂信に陥るでしょう。キリストを中心とする者だけが霊的なバランスを保ち、キリストの正義と慈悲の完璧なバランスの正しい型に従うのです。

二つの抑圧する意図

真理の知識はあるが、それによって満足していない種類の人々がいます。現代の言葉で言えば、それを「リベラリズム」と呼びます、つまり罪にふける自由ということです。

「あらしが迫って来るとき、第三天の使命を信じて公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、**その持ち場を棄てて**反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般向けの側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。」⁵

リベラリズムは進歩主義的な考えを視野に持ち込み、箱舟を左へと押しやります。一方、律法主義者として知られる保守的な考えを持つ人々は、箱舟を右へと押しやります。どちらの道も、破滅への道です。「もしサタンが魂を無関心という氷に縛り付けることができなければ、彼らを狂信という火の中へ押し込もうとする。」⁶

神の民の残りの者は、歪んだリベラルな見解にも、律法主義者が提示するキリスト抜きでの冷淡な神の意志の解釈にも耳を傾けません。その代わりに、神の恵みを通して、わたしたちは、「右にも左にも迷い出てはならない、あなたの足を悪から離れさせよ」（箴言 4:27）。

神の残りの民、救われた者たちは、人類の歴史を終わらせる数秒が終わる前に人類に最後のメッセージを伝えるという偉大な仕事の一環として、神の器、神の油（聖霊）の運搬者として用いられるでしょう。

学ぶべき教訓

最近の世界的危機は、教会として一つのことを教えました。わたしたちは、無邪気な意見の分裂を感じました。それはほんの穏やかな波でしたが、一部の地域では大きな混乱を引き起こしました。次の波がいつ来るのか想像してみてください。わたしたちは依然として友好関係を維持できるのでしょうか。それとも、このような世界的危機の時にとったのと同じ行動に戻る人がいるのでしょうか。

わたしたちは逆境を、真の迫害を見逃しているようです。長年にわたり、わたしたちは高度な神学論争といったデリケートな問題に関心を持つ一方で、希望を失ったとわたしたちが考える貴重な魂を見失いがちであることに気づいています。一方、イエスは彼らをまさに愛の対象として見ておられます。

わたしたちは時間と戦うことはできません。地上に長く留まれば留まるほど、天国への魅力は薄れていくでしょう。地上に長く留まれば留まるほど、天国に属しているふりをしてしまうのです。ユダヤ人が父アブラハムへの愛着を装ったように、わたしたちも1914年の宗教改革の先駆者たちを個人的に体験することなく、彼らへの愛着を要求することができるのです。賢明な格言に「主張すればするほど、わたしたちは少なくなる」というものがあります。

悲しいことに、「世の住民たちは大いにサタンの支配に自らを明け渡してきた。彼はこの地の神のようにふるまっている。人類はほとんど悪へと渡され、彼の陰謀において彼を協力し、神の統治に反対する彼の計画を実行するために助けている。」⁷

この大反逆者の目的は常に、自らの正当性を立証し、自らの反逆の責任は神の政府にあることを証明しようと試みることでした。そして、長きにわたり続く大争闘について、自らの見解を大勢の群衆に受け入れさせました。何千年もの間、この陰謀家は真実の代わりに嘘を広めてきました。わたしたちは皆、「大争闘」を読みましたが、聖霊の目薬を祈り求めなければ、「もう一つの見解」は読者を全く逆の結論に導くでしょう。

100年間の功績と失敗を振り返ると、わたしたち国民は浮き沈みを経験してきたことに気づきます。もし功績があったとすれば、それは神の御業です。誠に、わたしたちは成功からも失望からも、共に多くのことを学ぶことができます。

わたしたちの考察のために

弟子たちとその過去を振り返ると、彼らのほとんどは今日のわたしたちの同僚となる資格がありません。マタイは取税人、ペテロは夢中になった無知な人、ヨハネは激しい性格、トマスは懐疑的な人、ユダは狡猾で洗練された知識人でした。そしてリストは続きます。

旧約聖書を見ると、モーセは神の許しなくエジプト人を殺害したため、わたしたちの同僚となる資格がありません。

彼の兄弟アロンが教会の牧会を託されたことについて、特に金を溶かし、偶像崇拜の金の子牛を崇拜するよう人々を誘い、人々を背教に導いたことについて、わたしたちは何と言えるでしょうか。

神の大義を裏切り、イゼベルから逃げ出したため、わたしたちの同僚となる資格がないエリヤについて、わたしたちは何と言えるでしょうか。

新約聖書には、同じ偉大な英雄たちが繰り返し登場します。

バプテスマのヨハネ、彼は神の王国を宣布した後、牢獄で次のように言いました、「『きたるべきかた』はあなたなのですか。それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか」（ルカによる福音書 7:19）。

過剰なまでの自尊心のあまり、キリストを最もひどい方法で否定したペテロ、あるいはタルシシのサウロが教会を迫害した時のように。こうした人々は皆、わたしたちの仲間とは呼べません。

ですから、愛する兄弟姉妹の皆さん、イエスの模範に倣い、聖霊の二倍の賜物を受ける若者たちのチームと共に、自らを備え、方向性を失った世界の悲惨と苦しみを終わらせましょう。

過去を振り返り、あるいは未来を見つめることで、わたしたちが今もなおここにいる理由がはっきりと見えてきます。ある者は学び、ある者は見過ごしてきた100年にわたる教訓。それでもわたしたちはここにいるのです。

今を祝福すべき時と捉えるか、傷を癒す時間を持つべきかは、読者次第です。

主イエス・キリストに、子どもたちと若者たちの救い、牧師と会員たちの救い、そして聖霊の注ぎをもたらすキリストにおける必要な一致を、共に祈り求めましょう。時は過ぎ去りました。わたしたちが自らが公言するとおりの人間にならなければ、決して自らの主張に見合う生き方はできません。自慢すればするほど、わたしたちはより少なくなります。主張を少なくすればするほど、わたしたちはより神を反映するのです。わたしたちの神である主が、真の証人の現実を受け入れ、独善という幻想からわたしたちを救い出してくださるよう。

天国には三つの驚きがあります。

「一人のクリスチャンがあるときこう言ったわたしが天国に行った時、三つの驚く理由があるでしょう。そこで当然会うと思っていた人を見つけることができないことに驚くでしょう。そこで会うことはないと思った人と会って驚くでしょう。そして最後に一番驚くのは、自分のように価値のない罪人が神のパラダイスにいることを見出して驚くでしょう。」⁸

神はわたしたちを、外見や数を超えた信仰、キリストの御性質を真に反映する、質と深さの信仰へと召しておられることを、決して忘れてはなりません。わたしたちの使命は、世間の目に力強い群衆として見られるのではなく、質素で謙虚な中であつても救い主の光で輝く者として見られることです。

わたしたちの前の世代が計り知れない困難に直面したように、わたしたちも逆境にあつても忠実であり続け、神だけが与えることのできる力に頼るよう召されています。

そして主の再臨を待ちながら、絶えず、次のように祈りましょう、「主よ、わたしたちを助けて、一つ一つの言葉、一つ一つの行動にあなたのご品性を反映できるようにしてください。こうして世がわたしたちのうちに、消えない希望を見ることができるためです。」

夜も更け、世界はキリストが与えてくださった光を必要としています。わたしたちがその光となり、変化を起こせますように！

引用:

1. <https://thirdwaycafe.com/prepare-for-peace/living-peace/pacifism/>[強調追加]
2. 各時代の希望下巻 298
3. キリストの実物教訓 47
4. レクテット・メッセージ 3 巻 386
5. 各時代の争闘下巻 378[強調追加]
6. 教会への証 5 巻 644.
7. 手紙と原稿 16 (1901), Lt. 153, 1901.
8. 信仰によってわたしは生きる 370.

反射させること及び輝くこと

運動であることは、行動を含んでいます！ 実際的な行動によってキリストの光を反射させましょう。

正直に反省するひと時を持ちましょう。わたしは平安の時に立つ勇気があるだろうか。試練の時はどうだろうか。

一致にある強さ

エリ・テリオ・ダ・シルバ著

聖書を通じて、信徒たちは一致するべきであり、そのように訓告されています。詩篇記者は次のように言いました、「見よ、兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう。」（詩篇 133:1）

そして、イエスをご自分の弟子たちのために祈られました：

「あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」（ヨハネによる福音書 17:21）

信徒たち間の一致は、福音の真理を証しする最も力強いものの一つです。それは神のご品性を反映し、誠実な魂をキリストへと引き寄せ、神の恵みの変える力を世界に示します。

戦争、共感の欠如、離婚、利己的な疎外感に満ちた、ますます分裂が進む世界において、神の民の一致は希望の光となり、神の愛から発せられる力の証となります。この古い世界が提供できるものよりも良いものを求める多くの誠実な魂は、神に従う者たちの愛と一致を通して神のメッセージの真理を確信し、教会が全世界に福音を宣べ伝えるという使命を成功させるでしょう。「神のみ働きにおけるわたしたちの成功の秘訣は、わたしたちの民が調和して働くことに見いだされるであろう。」¹

神の子らの間の一致は、提案としてではなく、神によって確立された原則として認められます。

「わが兄弟は、神のみ言葉が教会の一致を原則の問題として提示していることによく注意しなさい。天来の起源をもつ真理によってキリストに一致している人々は、互いに強い友情を持つのである。」²

しかし、この調和は、単なる組織的なものや表面的なものではありません。それは、キリストのうちに宿る、そのご品性を反映することから生まれる、深く霊的なつながりなのです。ですから、聖書と預言の霊を通して、一致の中に見出される強さ、一致を阻むもの、そしてこの危機的な時代にどのように一致を育むことができるかについて、考察を深めていきましょう。

一致を求める聖書的な召し

ヨハネ 17 章 20-23 節にある、信者の一致を求めるイエスの祈りは、イエスの最も熱烈な祈りの一つでした。十字架刑の前に捧げられたこの祈りは、弟子たちだけでなく、彼らの証しを通してイエスを信じるすべての人々、今日のわたしたち一人一人まで含むすべての人に向けられたものでした。

「...彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります」（ヨハネ 17:23）。

この祈りは、キリストが弟子たちが目的、使命、そして愛において一つになることを望んでおられることを示しています。このような一致は、父と子の間に存在する一致を反映しています。この一致は、福音が真実であり、変革をもたらすものであることを世界に示す証です。使徒パウロは手紙の中で、この一致への呼びかけを強調しています。エペソ人へ手紙を記し、彼は教会に、訓告しました。「平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである」（エペソ人への手紙 4:3-6）。

パウロが「一つ」という言葉に重点を置いたのは、キリストへの共通の信仰を通して信者たちが互いにつながっていることを浮き彫りにしているからです。一致は選択的なものではなく、改革運動のアイデンティティと使命、そしてキリストの体の一員としてのわたしたち一人ひとり的人格形成の基盤となるものです。「人を助け、人を恵みたいという衝動が絶えず心からわき出るときに、クリスチャン品性は完成する。信者の魂をとりまくこの愛の雰囲気、彼をいのちからいのちに至らせるかおりとし、その働きを神に祝福されるものとするのである。」³

団結は、キリストによって変えられた心から生まれ、自己に奉仕するのではなく、他者を祝福し高めようとする心から生まれます。

世に対する証人として一致

キリスト教の統一の最も魅力的な側面の一つは、世界に対して証言する能力です。イエスは、信徒たちの一致をご自分の使命の信頼性へと直接結びつけました。

「互いに愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」（ヨハネ 13:35）。

信者が互いに真の愛、忍耐、謙遜を示すとき、それは福音の力の揺るぎない証拠となります。分裂と争いに満ちたこの世の人々は、神の民の特徴である調和と平和に目を向けます。

初代教会はこの原則を体現しました。使徒行伝 2 章 42 節から 47 節には、信者たちが「心を一つにして」、喜びと純粋な心で食事や物資を分かち合っていたと記されています。彼らの一致と互いへの愛は、彼らの信仰を強めただけでなく、他の人々をキリストへと引き寄せました。その結果、「そして主は、救われる者を日々教会に加えて下さったのである」（使徒行伝 2:47）。

預言の霊は、この一致について次のように言及しています。「民の間に一致と兄弟の愛があることが神のみこころである。」⁴このようにしてのみ、教会は世界に光を広める、生き生きとした活動的な機関となることができます。

真の一致には、いくら強調してもし過ぎることのない伝道の力があります。それは福音の生きた実践であり、言葉よりもはるかに雄弁な説教です。

一致への障壁

一致は重要であるにもかかわらず、人間の弱さや欠点によってしばしば妨げられます。プライド、利己心、偏見、そして許しの欠如は、大きな障壁となります。エレン・ホワイトは次のように警告しています。

「家庭や教会内の不和や分裂の原因は、キリストから離れることにある。」⁵

信者がキリストを見失い、自己中心的になると、必然的に不一致が生じます。魂の敵は、分裂が教会の証人を弱めることを知りながら、不和を撒き散らすことを喜びとします。

使徒パウロは初代教会への手紙の中で、これらの課題について述べています。例えば、コリントの教会は、指導力と霊的な賜物をめぐる分裂に苦しんでいました。パウロは彼らにこう諭しました。「さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧める。みな語ることを一つにして、お互い間に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結びあってほしい」（コリント人への第一の手紙 1:10）。

団結の障害を克服するには、意図的な努力、謙虚さ、そして個人的な好みよりもキリストの使命を優先する意志が必要です。

一致へのかぎ: キリストにやどる

信徒間の真の一致はキリストとの深いつながりがなければ不可能です。イエスは次のように言われました、「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」(ヨハネによる福音書 15:5)。

信徒たちがキリストにつながるとき、このお方のすがたへ変えられます。彼らは御霊の実—愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制(ガラテヤ 5:22-23)を結び、これらは一致を育成します。キリストとの一致は、これが実現するために必要です。もしわたしたちが神との交わりのうちにいるなら、このお方の愛を流す通路となり、他の人々へ流れていくでしょう。信者は神の愛を経験するにつれて、他者を愛し、仕える力を得ます。この無私の愛こそが、教会を一つに結びつける絆なのです。

ピリピ人への手紙 2 章 2 節から 4 節にあるパウロの助言は、一致を育むための実践的なステップを示しています。「どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。何事も党派心や虚栄からするのではなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。」

一致には謙虚さ、無私、そして奉仕への意欲が必要です。これらの資質は、キリストとの日々の交わりと聖霊の内住を通して培われます。

「一致のために真剣に奮闘しなさい。そのために祈りなさい。一致は霊的な健康、思想を高めること、品性の高潔さ、天へ向かう思いをもたらし、あなたが利己心と邪推に打ち勝ち、あなたを愛し、あなたのためにご自身を捧げて下さったお方を通して勝利者以上の者になれる。他の人々を自分よりすぐれた者とみなす。こうしてあなたはキリストと一つになるよう導かれる。天の宇宙の前に、教会と世の前に、あなたは自分が神のむすこ娘たちであるという間違いのない証拠を担うようになる。神はあなたが残した模範のうちに栄光をお受けになる。」⁶

終わりの時代の一致

終わりの時が近づくにつれ、神の民の一致がさらにますます重大になる。

「キリストとの一致と、互いとの一致は、この終わりの時代におけるわたしたちの唯一の安全である。」⁷

わたしたち信者が終わりの日に直面する試練と反対により、より強い一致を要求されます。教会内の分裂は、悪の勢力に対抗する教会の力を弱めます。教会内の一致は、永遠の福音を力強く宣べ伝える、止められない善の力となります。このような一致は、信者を鼓舞し、教会に降りかかる最も困難な状況下でも、神を愛し、喜んで神に従うことを世界に示す力となります。黙示録 14 章 6~12 節は、終わりの日に残りの教会が果たす使命について述べています。それは、三天使のメッセージをあらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えることです。この世界的な使命には、すべての信者が目的と行動において一致団結して努力することが求められます。

世界は、あなたの信仰と私の信仰がわたしたちをどのような道へと導いているのか、強い関心をもって見守っています。そして、わたしたちが互いに愛し合うことは、誰も反駁することのできない真理の証しです。そして神は、終わりの日にわたしたちが直面するであろう試練に耐え、神の戦いに立ち向かう備えをした、一致した教会を求めておられます。

教会に臨む最後の出来事に備えるだけでなく、この一致は、わたしたちのメッセージの真実性と、わたしたちを一つに結びつけるキリストの愛を、世界に示す最大の証拠となるでしょう。

教会内の一致を育成するための実際的なステップ

一致は、繁栄し、霊的に健全な教会の礎です。分裂と個人主義が蔓延する現代において、教会は愛、調和、そして協力の光となるよう召されています。しかし、一致を育むには、意図的な行動、恵み、そして実践的な行動が必要です。以下は、教会共同体の中で一致を築き、維持するための重要なステップです。

1. キリスト中心の交わりに焦点をあてる

一致は、イエス・キリストに基礎を分かち合うことから始まります。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である:もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かにむすぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」(ヨハネによる福音書 15:5)。信者がキリストとの関係を優先すると、自然と互いの絆が深まります。聖書研究、祈禱会、宣教活動などを通して、キリストを中心とした交わりの機会を定期的に設けましょう。

2. 謙遜と許しの素養をつちかう

誇りと未解決の対立は、一致にとって大きな脅威となります。今日の教会における多くの対立の根源は、自己中心性、つまり「自分が好きなもの」「自分が欲しいもの」「これが自分の意見だ」という問題です。個人の好みよりも他者の必要を優先することで、謙遜さを教え、模範を示しましょう。

「何事も党派心や虚栄からするのではなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい」(ピリピ人への手紙 2:3、4)。

さらに、不満を迅速かつ丁寧に解決することで、赦しの文化を促進する必要があります。教会員は和解を求め、主が自分たちを赦してくださったように赦すよう奨励しましょう。互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい」(コロサイ人への手紙 3:13)。

3. オープンで正直なコミュニケーションを奨励する

コミュニケーションが不足すると、誤解はすぐに分裂へとエスカレートしてしまいます。会員が自分の意見が聞かれ、尊重されると感じられる、オープンな対話の場を作りましょう。例えば、質疑応答形式の教会集会、小グループでのディスカッション、定期的な教会の事務会、匿名のフィードバックフォームなどです。「また、良い行いをし、良いわざに富み、惜しみなく施し、人に分け与えることを喜び、」(テモテへの第一の手紙 6:18 強調追加)。

リーダーは、コミュニケーションにおいて親しみやすさと透明性を保つことで模範を示すべきです。

4. 賜物の多様性を感謝する

一致は、統一を意味するものではありません。教会内の賜物、経歴、支店の多様性を、心から感謝しましょう。コリント第一 12:12-14 にある真理を大切にしましょう。

「からだ一つであっても肢体は多くあり、また、からだのすべての肢体が多くあっても、からだは一つであるように、キリストの場合も同様である。なぜなら、わたしたちは皆、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、そして皆一つの御霊を飲んだからである。実際、からだは一つの肢体だけではなく、多くのものからできている」。

この聖書の一節は、キリストの体が多の異なる部分から成り、それぞれが独自の役割を担っていることを思い出させてくれます。ですから、一つになるということは、皆が同じ色を好み、あらゆるものに同じ趣味を持つということではありません。教会には、私とは異なる意見や趣味を持ちながらも、教義を信じ、賛同し、神に仕え、魂をキリストへと導くという同じ目標を持つ人々が必要です。多様性を尊重し、活用することで、教会はより強く、より効果的に使命を果たすことができるのです。

5. 共に仕える

奉仕の共有は、目的意識と仲間意識を育みます。教会内外で、そして地域社会全体で奉仕する機会を会衆に提供することで、これらの恩恵が促進されます。地域へのアウトリーチイベント、宣教旅行、教会の奉仕活動へのボランティア活動など、共通の目標に向かって共に働くことは、人間関係を強め、結束を深めます。

「彼らはおのおのその隣を助け、その兄弟たちに言う、『勇気を出せよ』と。細工人は鍛冶を励まし、鎚をもって平らかにする者は金敷きを打つ者に、はんだづけについて言う、『それは良い』と。また、くぎをもってそれを堅くし、動くことのないようにする」（イザヤ書 41:6、7）。

一緒に奉仕すれば、わたしたちは互いに励まし合い、信仰が強められるでしょう。

6. 強いリーダーシップを備える

一致を育成するためにリーダーたちは極めて重要な役割を果たします。「それゆえ祭司も民と同じようになる」（ホセア書 4:9）。リーダーは、常に一体感のビジョンを推進し、対立に迅速に対処し、謙虚さと愛の模範を示さなければなりません。また、リーダーは、教会生活への貢献から疎外感を感じる人がいないよう、他のリーダーがリーダーシップを発揮できるよう備えさせるべきです。

7. 一致のために祈る

「一緒に祈る夫婦はずっと一緒にいる」という諺があります。これは、一致のために一緒に祈る教会員にも当てはまります。一致のために祈る際には、イエスの模範に従うこととなります。イエスは、信者たちの一致のために祈られました（ヨハネ 17:21-23）。

祈りは一致を保つために不可欠です。会衆が互いのために、そして教会全体のために祈るよう促しましょう。一致に焦点を当てた集団祈禱会は、会員の心を神の御心に一致させるため、大きな力を発揮します。

8. 一致の聖書的な原則を教育する

わたしたちは聖書の原則を守り、神に忠実であるためには、必要であれば命を捨てることさえ厭わない覚悟が必要です。同時に、もし原則に関わらないのであれば、他人の好みや意見に譲る覚悟も必要です。（利己心を空にする必要があります。）

聖書が一致、愛、そして共同体について何と言っているかを定期的に教えましょう。説教、セミナー、聖書研究は、一致がなぜ重要なのか、そして神の言葉に基づいてどのようにそれを実践的に追求するかを理解するために必要な神学的基盤を提供することができます。

9. 対立する問題を知恵をもって述べる

教会も意見の相違から逃れられるわけではありません。分裂を招くような問題が生じた場合は、迅速かつ賢明に対処してください。マタイによる福音書 18 章 15～17 節に概説されている原則など、聖書に基づく紛争解決の枠組みを用いてください。「もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、行って、彼とふたりだけの所で忠告しなさい。もし聞いてくれたら、あなたの兄弟を得たことになる。もし聞いてくれないなら、ほかにひとりふたりを、一緒に連れて行きなさい。それは、ふたりまたは三人の証人の口によって、すべてのことがらが確かめられるためである。もし彼らの言うことを聞かないなら、教会に申し出なさい。もし教会の言うことも聞かないなら、その人を異邦人または取税人同様に扱いなさい。」

異教徒や取税人が教会を訪れた時、わたしたちはどのように接するでしょうか。わたしたちの中で過ちを犯した人々にも、同じ恵みと親切の精神を持ち続け、キリストとその体である教会の一致を尊ぶ解決策を探し求めましょう。

10. 世代を超えた関係を奨励する

世代間の関係は教会に豊かさをもたらします。メンターシップ、共同活動、そして世代間の溝を埋める交わりの機会を育みましょう。若い会員は年長者の知恵から学び、年長者は若い世代のエネルギーと新鮮な視点から刺激を受けることができます。神は、それぞれの世代が持つエネルギー、知識、経験といった独自の力によって、一致団結して働くことを望んでおられます。

「子たちよ。あなたがたにこれを書きおくるのは、…

父たちよ。あなたがたに書きおくるのは、…

子供（青年）たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、…」

(ヨハネ第一 2:12-14).

結論

教会のある兄弟たちとの誤解があり、信仰を失いそうになっていた友人が、こう言いました。「人が改革運動を離れるのは教義のためではないと思う」。彼の経験を通して、どれほど多くの人が信仰を失っているか、つまり、彼らが何を言おうと、実際にはどれほど多くの人が信者間の不一致が原因で信仰を失ったかについて考えるようになりました。不一致は教会を滅ぼすことができますが、一致は、魂をキリストへと導くという教会の使命を成功へと導きます。

教会における一致を育むことは、一度きりの努力ではなく、継続的な取り組みです。意図的な努力、忍耐、そして聖霊への信頼が必要です。これらの実践的なステップを実行することで、教会は愛と調和が花開く環境を作り出し、神の変革をもたらす恵みを世界に力強く証しすることができます。ちょうど詩篇 133:1 がわたしたちに思い起こさせてくれるように、「見よ、兄弟が和合して共にいるのはいかに麗しく楽しいことであろう。」。

キリストのみ言葉を通して、今この瞬間にあなたとわたしに、心に決意を定め、神の恵みによって、神の祈りを成就し、兄弟たちと一つになるために、できる限りのことをするようにと訴えておられます。「つづやいたり、欠点を探してはならない。イエスを仰ぐときに、キリストのみかたがたが魂に刻まれ、精神や言葉、そして同胞仲間のための真の奉仕において反射する。キリストの喜びがわたしたちの心の内にあり、わたしたちの喜びは完全になる。これが真の宗教である。わたしたちはたしかにこれを得ようではない

か。そして親切で、勇気あり、魂のうちに愛を持とう。あふれ出て、よい行いのうちに表現されるような愛、世を照らす光となる愛、そしてあなたの喜びを完全にする愛を。」⁸

であるから、これらの言葉をあなた自身のもthingとしてください。今、キリストの恵みによって、わたしは自分の兄弟につぶやいたり、欠点を探したりしないことを始めます。わたしは親切で、勇気あり、魂のうちに愛を持ち、だれのことも陰口を言ったり、うわさしたり、中傷したりしません。わたしは自分の兄弟たちと一致し、調和し、きる限りすべての人と平和にすごします（ローマ 12:18）。イエスのみ名を通して、アーメン。

引用:

1. ビュー・アト・ハラト 1890年12月2日
2. 1888年E.L.G. 柯什原稿 1141.
3. 患難から栄光へ下巻 254
4. 人類のあけぼの下巻 152
5. アドベンチストホーム 191
6. 教会への勧告 290.
7. 教会への証 8巻 240.
8. 上を仰いで 268.

反射させること及び輝くこと

運動であることは、行動を含んでいます！ 実際的な行動で聖霊を迎える準備をしましょう。

今週末、自分の地元の教会の使命に行動を通して貢献できる何らかの方法を探してみませんか？ 昼食後の食卓をふくとか、安息日学校で質問に答えるなど。わたしたちは参加することによって一致に貢献することができます。

勝利の上になおも勝利を

A. C. サス著

「征服する」という言葉には様々な意味があります。打ち負かす、奪取する、服従させる、克服する、征服する、勝利を得るなどです。

聖書の中に一か所だけ、「勝利の上になおも勝利を」という言葉が、黙示録 6:2 にあります。これは、第一の封印の預言、第一のクリスチャン教会の時代の中で白い馬に乗った人に言及して記されています。その特徴は、わたしたちの主イエス・キリストの生涯と働きを主張しており、このお方の地上での働きの生涯は、事実、勝利の上になおも勝利をでした。

ご自分の弟子たちと語られた中で、イエスは次のように確認されました。「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世では悩みがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」（ヨハネによる福音書 16:33）。地上で人の子として 3 年半にわたり日々宣教をされた救い主は、常に勝利を収められました。例えば、洗礼を受けた直後、荒野でサタンの誘惑に遭われた際にも、勝利を収められました。

『「この世の君が来るからである。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない」とイエスは言われた（ヨハネ 14:30）。イエスの中にはサタンの詭弁（きべん）に応ずるものは何もなかった。イエスは罪に同意されなかった。一つの思いにおいてさえ、彼は試みに負けたまわなかった。....

しかもキリストは、これが達成される方法をわれわれにお示しになった。イエスはサタンとの戦いにどんな手段で勝利されただろうか。神のみことばによってである。みことばによってのみ彼は試みに抵抗することがおできになった。『こう書かれている』とイエスは言われた。』¹

キリストは地上での宣教活動の間中ずっと「勝利」を収めていましたが、最終的な勝利は次の言葉を発したときに得られました。「すべてが終わった」（ヨハネ 19:30）。「わたしは世に勝った」という言葉は、救い主が十字架上で贖いの業を成し遂げた時に、文字通り成就しました。主は悪魔に打ち勝ち、アダムとエバの手から残酷にも奪われ、欺瞞によって奪われた世界を征服されました。今や「この世の国は、われらの主とそのキリストとの王国となった」（ヨハネの黙示録 11:15）。

昇天後、わたしたちの勝利に満ちた主は次のように宣言されました。「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威をさすけられた。」（マタイ 28:18）このお方は勝利の上になおも勝利を得る力のために、地上にご自分の代表者を送ると約束されました。このお方は、次のように言われました。「行って、『天国が近づいた』と宣べつたえよ。病人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出せ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい」（マタイによる福音書 10:7、8）。

イエスの約束が成就するためには、信者たちは聖霊から特別な力を授けられなければなりません。その力なしには、主の業を行うことさえ試みるべきではありません。その力なしには、勝利を得ることはできないでしょう。彼らは約束された力を受けるまで、エルサレムで 10 日間辛抱強く待つべきでした。イエスは次のように言われました、「見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」（ルカによる福音書 24:49）。

ペンテコステの日に成就する

聖書は、わたしたちに特別な出来事を次のように説明しています。

「五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起こってきて、一同がすわっていた家いっぱい響きわたった。また、舌のようなものが、炎のように分かれて現れ、ひとりびつりの上にとどまった。す

ると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろ他国の言葉で語り出した。さて、エルサレムには、天下のあらゆる国々から、信仰深いユダヤ人たちがきて住んでいた」（使徒行伝 2:1-5）。

預言の霊は、弟子たちが聖霊に満たされた後に何が起こったのかについてさらに情報を与えています。

「ペンテコステの日に、聖霊が与えられた。キリストの証人たちは、復活の救い主の能力を宣言した。天の光は、キリストの敵にあざむかれた人びとの暗い心を照らした。今や、彼らはイエスが『イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、……導き手とし救主として』上げられたのを知った（使徒行伝 5:31）。彼らは、イエスが無限の宝を手にして、立ち帰るすべての反逆者たちに与えようとして、天の栄光に包まれておられるのを見た。使徒たちが父のひとり子の栄光について語ったとき、三千人が悔い改めた。彼らは、自分たちが、なんと罪深く汚れているかに気づきキリストを彼らのよき友、あがない主として見る事ができるようになった。キリストは、人びとの上に注がれた聖霊の力によって高められ、あがめられた。信者たちは、自分たちが滅びないで永遠の命を得るために屈辱と苦難と死にあわれたのは、この方であることを、信仰によって悟った。聖霊によって与えられたキリストの啓示は、彼らをキリストの力と威光

とに触れさせた。彼らは、信仰の手を伸ばして『わたしは信じます』と言ったのである。

こうして、復活なされた救い主の喜ばしい知らせは地の果てまでも伝えられた。教会は、全地から集まる改宗者の群れで満ち、信者は、悔い改めを新たにし、罪人もクリスチャンと共に、高価な真珠を求めた。』²

「ペンテコステの日に、無限のお方はご自身を力のうちに教会に表わされた。ご自分の御霊によって、このお方は激しく力強い風のように天の高みから弟子たちが集まっていた部屋に下って来られた。それは幾世代もこの感化力が抑制されていたかのようであった。そして今や天は教会にこの御霊の力という富を注ぐことができることを喜んだ。そして、聖霊の感化力の下に悔悟と告白の言葉が、許された罪のゆえに賛美の歌声に混じった。感謝と預言の言葉が聞かれた。全天は比類のない理解を越えた愛を眺め、あがめるために身をかがめた。驚きにわれを忘れて、使徒や弟子たちは叫んだ、『ここに愛がある』（ヨハネ第一の手紙 4:10）。彼らは与えられた賜物をつかんだ。その後、何が続いたであろうか。幾千もの人が一日に改心した。御霊のつるぎがあらたに力をおび、天の光を浴びて、不信を切り裂いて進んだ。』³

ペンテコステの後

勝利の力という約束は、初期の弟子たちにもみ与えられたものではありません。それはあらゆる時代のイエスの弟子たちにも与えられています。真に改心したキリストの弟子なら誰でも、その力を受けることができます。彼らの働きは問題や困難に巻き込まれても、彼らは諦めません。彼らは勝利に向かって突き進みます。この働きにおいて、彼らは孤独ではありません。彼らは、「世の終わりまで」共にいると約束された主からの助けを受けます（マタイによる福音書 28:20）。

靈感の筆は、勝利を得るため、征服するための条件を教えています。

「神の働き人たちは、はるかに深い経験を得なければならない。もし彼らがすべてをこのお方に明け渡すなら、このお方は彼らのために力強く働かれる。彼らは真理の旗印を、それまでサタンに征服されていた要塞の上に立て、勝利の叫びをもって、それらを所有するであろう。彼らは戦いの傷を負うが、主が彼らを勝利の上になお勝利をもって導かれるとの慰めのメッセージもたらされるのである。』⁴

「主はご自分の管理者たちが自分たちの義務を、ご自分の名とご自分の御力によって忠実に果たすことを望んでおられる。このお方のみ言葉を信じ、その教えに従って行動することによって、彼らは勝利の上になお勝利をもって進むことができる。』⁵

大格闘

「もろもろの支配と、権威とやみの世の主権者、また天井にいる悪の霊に対する」戦いにおいて、激しい霊的な格闘において（エペソ人への手紙 6:12）、神の僕たちは時に敗北に直面します。しかし、一見敗北に見える結果は、すばらしい勝利です。次のようになります。

「幻の中で、わたしは恐るべき戦いにある二つの軍勢を見た。一つは世の記章を帯びた旗印に導かれていた。もう一方は、インマヌエルの君の血染めの旗印に導かれていた。旗につぐ旗がちりの中に引きずられるがままに残され、隊列につぐ隊列が主の軍勢から敵へ加わり、部族につぐ部族が敵の隊列から神の戒めを守る民に参加した。一人の御使が中空を飛び、インマヌエルの旗印を多くの人々の手に持たせた。その一方では力強い将軍が大声で叫んでいた、『隊列に入れ。神の戒めとキリストのあかしの忠実である人々にその立場を取らせよ。彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。』

戦いは激しくなり、勝利は両者に行ったり来たりした。今や十字架の兵士たちが『旗手が倒れるときのように』（イザヤ 10:18 欽定訳）道をゆずる。しかし、彼らの一見した退却は、さらに有利な部分を勝ち取るためにすぎない。喜びの叫びが聞こえる。キリストの兵士たちがこのお方の旗印を敵に取られていた要塞の城壁に立てるとき、神への賛美の歌がのぼり、御使たちの声が歌に加わる。わたしたちの救いの将は戦いを命じ、ご自分の兵士たちに援助をお送りになる。このお方の力が協力に表され、戦いを門まで押し進める勇気を与える。このお方が一步一步勝利の上になお勝利をもって導かれるとき、義のうちに恐るべきことをお教えになる。

最後の勝利を得る。『神の戒めとイエスの信仰』と記された旗印に続いた軍勢は、栄光に満ちた勝利を得る。⁶

戦いの問題は死すべき人間の力にかかっているではありません。「主は勇士のように出て行き、いさ人のように熱心を起し、ときの声をあげて呼ばわり、その敵にむかって大能をあらわされる。」「馬に乗り、勝利の上になお勝利をもって出て行くお方の力のうちに、弱く有限な人間が勝利を得ることができるのである。』⁷

後の雨のもとで

「1840-44年の大再臨運動は神の力の栄光に満ちた現われであった。第一のメッセージは、世界中のすべての伝道拠点へ伝えられた。そしてこの国では、16世紀の改革以来、どの地で目撃されたものよりも大きな最大の宗教的関心が起こった。しかし、第三天使の大いなる叫びのもとでの力強い運動によるものは、これらをはるかにしのぐ。働きはペンテコステの日になされたものと似ているであろう。神の僕たちは聖なる献身に顔を輝かせて天からの警告を宣布するために場所から場所へと先を急ぐ。地全体に、幾千もの声によって、メッセージが与えられる。奇跡が行われる。病人がいやされ、しるしと不思議が信徒に伴う。サタンもまた偽りの不思議をもって働き、人々の前で天から火をふらせることさえする。こうして地の住民は自分の立場を明らかにせざるを得なくなる。』⁸

「夜の幻の中で、わたしのために神の民の間の大いなる改革運動についてのあらわれがわたしの前を過ぎていった。多くの人々が神を賛美していた。病人はいやされ、他の奇跡が行われた。大いなるペンテコステの日の前にあらわされたように、とりなしの精神が見られた。幾百、幾千もの人々が家族を訪問し、彼らの前に神のみ言葉を開いていた。心は聖霊の力によって確信させられ、本物の改心の精神が表された。至る所で、真理の宣布に対して、扉が開かれた。世界が天の感化力に明るくされたかのようであった。大きな祝福を真実でへりくだる神の民は受けた。感謝と賛美の声を聞いた。そして1844年に目撃されたような改革があるようであった。』⁹

「キリストの義の武具をまとして、教会は最後の戦いに入るのである。『このしののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者はだれか』。教会は、全世界に勝利の上になおも勝利を得て出て行くのである」¹⁰

「わたしは、武具をまとった人々が力強く真理を語るのを聞いた。それは効果的であった。多くの人々が縛られていた。夫に縛られていた妻もあれば、親に縛られていた子供もあった。真理を聞くことを妨害されていた心の正しい人々は、今、熱心に真理を自分たちのものにした。親族を恐れる気持ちは全くなかった。そして、真理だけが彼らの前で高められたのである。彼らは、飢え渇くように真理を求めていた。真理は、生命よりも愛すべく尊いものであった。わたしは、何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。『それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大いなる叫びである』と天使は言った。

「大いなる力が、これらの選ばれた人々と共にあった。」¹¹

「神のしもべたちは、きよい献身の喜びに顔を輝かせ、天からの使命を伝えるために、ここかしこ奔走する。全世界の幾千の声によって、警告が発せられる。奇跡が行なわれ、病人はいやされ、しるしと不思議が信じる者に伴う。サタンもまた、偽りの不思議を行ない、人々の前で天から火を降らすことさえする（黙示録 13:13 参照）。こうして、地上の住民は、立場を明らかにしなければならなくなる。

「使命は、議論によるよりも、神の霊の深い感動によって伝えられる。論拠はすでに示された。種はまかれた。そして今、それが生えて、実を結ぶのである。伝道者によって配布された文書は、その感化を及ぼした。しかし、感動を受けた人々の多くは、真理を十分に理解して、それに服従することを、妨げられていた。けれども、今、光は至るところにゆきわたり、真理は明らかになれば、神の忠実な子供たちは、彼らを束縛していたかせを絶ち切るのである。家族関係、教会関係は、もはや彼らを止める力がない。真理は他の何物よりも尊いのである。諸勢力が力を結集して真理に反対するにもかかわらず、多くの者が主の側に立つのである。」¹²

「キリストの愛、わたしたちの兄弟の愛が、世界に、わたしたちがイエスと共にいて、このお方から学んだ者であることを証するであろう。そのとき、第三天使のメッセージは大いなる叫びへと盛り上がり、全地は主の栄光によって明るくされるのである。」¹³

時にかなった訴え

「だれかがしなければならぬわたしたちのすぐ前にある義務を、わたしたちは取り上げるべきである。それが自分の意思に合わないからといってそれをなすことを怠ったり、ひるんだりしてはならない。わたしたちは努力することによって、わたしたちのまわりにある重荷を負い、義務をなすことによって、魂を訓練することができ、困難を克服することによって、自己を征服するために強くなる。状況の被造物になる代わりに、状況を征する者となり、障害に打ち勝つことによって勝利者になれる」。¹⁴

「わたしたちは今、戦場にいる。休んだり、楽にしたり、利己的な放縦のための時間はない。一つ有利になったら、再び戦わなければならない。あなたは新たな戦いのために新たな力を得て、勝利の上になおも勝利をもって進まなければならない。勝利を得るたびに、勇気、信仰、決意は増し加わる。神の力を通して、あなたは敵に勝ることが証明される。」¹⁵

「神はご自分の民が、従順が自分たちを理解力のある男女にすることを悟って、ご自分に従うことを望んでおられる。このお方は意志をもってご自分に従順な人々を愛のひもでご自分に引き寄せられた。このお方はご自分の民が勝利の上になおも勝利をもって出て行くことを望んでおられる。自分たちの生活の中で、指導者のご品性を現すことが彼らの特権である。男女の魂は神の御目に無限の価値がある。それは多くの人々が宣言するように、彼らに生来の不死があるからではなく、彼らがキリストを信じる信仰を通して不死を得ることが可能だからである。キリストだけが不死を有しておられる。このお方を信じることは、悔い改める魂にとって、新しい生涯の芽生えである。」¹⁶

「神の働き人たちは、はるかに深い経験を得なければならない。もし彼らがすべてをこのお方に明け渡すなら、このお方は彼らのために力強く働かれる。彼らは真理の旗印を、それまでサタンに征服されていた要塞の上に立て、勝利の叫びをもって、それらを所有するであろう。彼らは戦いの傷を負うが、主が彼らを勝利の上になお勝利をもって導かれるとの慰めのメッセージがもたらされるのである。」¹⁷

「主はご自分の管理者たちが自分たちの義務を、ご自分の名とご自分の御力によって忠実に果たすことを望んでおられる。このお方のみ言葉を信じ、その教えに従って行動することによって、彼らは勝利の上になお勝利をもって進むことができる。」¹⁸

「天の王の子らは、神の全宇宙の見て列席する前で戦っている。そしてこの事実はわたしたちを相当のために元気づけ、勝利の上になお勝利をもって出て行くよう導くべきである。」¹⁹

引用:

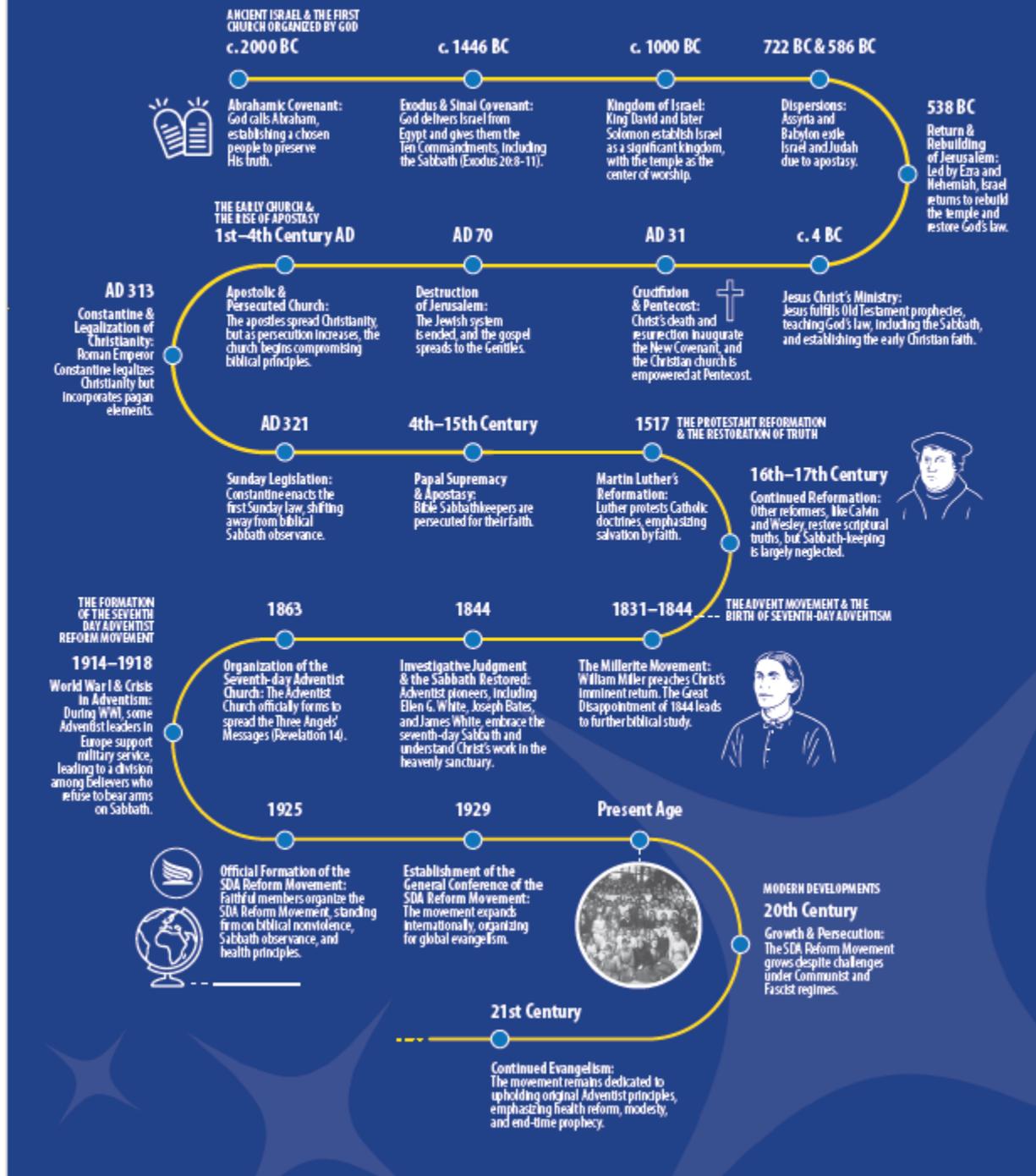
1. 各時代の希望上巻 135
2. キリストの実物教訓 98
3. 教会への証 7 巻 31.
4. ビュー・アット・ハルト 1903 年 9 月 17 日
5. 両親、教師、生徒への勧告 353.
6. 教会への証 8 巻 41, 42.
7. SDA バイブル・コメンタリ[E・G・ホワイト・コメンタリ]4 巻 1146.
8. 預言の霊 4 巻 429, 430.
9. 教会への証 9 巻 126.
10. 今日のわたしの生涯巻 311.
11. 初代文集 440
12. 各時代の争闘下巻 382, 383
13. 教会への証 6 巻 401.
14. 原稿リ-ス 15 巻 240, 241.
15. サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1891 年 9 月 7 日
16. ビュー・アット・ハルト 1900 年 7 月 10 日
17. 同上 1903 年 9 月 17 日
18. 原稿リ-ス 8 巻 161.
19. サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1895 年 4 月 4 日

反射させること及び輝くこと

運動であることは、行動を含んでいます！！実際の行動をもって、キリストの光を反射させましょう。

これらの読み物をふりかえり、最初にわたしたちの心に触れた部分をくり返して読みましょう。聖霊がもたらしてくださったメッセージをよく考えましょう。

Historical Timeline



歴史的な年表

昔のイスラエルと最初

c. 2000 BC

アブラハムの契約:

神はご自分の真理を保存するためにアブラハムを召し、選民を確立される

c. 1446 BC

出エジプト & シナイでの契約:

神はイスラエルをエジプトから救出し、彼らに安息日（出エジプト記 20:8-11）を含む十戒をお与えになる。

c. 1000 BC

イスラエルの王国:

ダビデ王、その後ソロモン王がイスラエルを、礼拝の中心となる宮をもった意義深い王国を設立する

722 BC & 586 BC

分散:

背教ゆえにイスラエルとユダがアッシリヤとバビロン捕囚

538 BC

帰還 & エルサレムの再建:

エズラ、ネヘミヤに導かれて、イスラエルが宮を再建し、神の律法を回復するために帰還する

c. 4 BC

イエス・キリストの伝道:

イエスが安息日を含む神の律法を教え、初期のクリスチャン信仰を確立させて、旧約の預言を成就する

AD 31

十字架 & ペンテコステ:

キリストの死と復活就任、新しい契約、クリスチャン教会がペンテコステに力を受ける

AD 70

エルサレムの滅亡:

ユダヤ制度の終焉、福音が異邦人へ伝えられる

初期教会 & 背教の台頭

1-4 世紀 AD

使徒の教会 & 迫害された教会:

使徒たちがキリスト教を広めるが、迫害が増し、教会は聖書の諸原則を妥協し始める

AD 313

コンスタンチン & キリスト教の合法化:

ローマ皇帝コンスタンチンがキリスト教を合法化するが、異教の要素を取り入れる

AD 321

日曜令:

コンスタンチンが最初の日曜令を制定し、聖書的な安息日遵守から動かす

4-15 世紀

法王権の至上権 & 背教:

聖書的な安息日遵守者たちが信仰のゆえに迫害される

1517

プロテスタントの改革 & 真理の回復

マルチン・ルターの改革:

ルターがカトリックの教義に抗議し、信仰による救いを強調する

16-17 世紀

継続される改革:

カルバンやウエスレーのような他の改革者たちが聖書的な真理を回復するが、安息日遵守は広く無視される

1831-1844

再臨運動 & セブンスデー・アドベンチスト主義の誕生

ミラーの運動:

ウィリアム・ミラーがキリストの差し迫った再臨を宣布する。1844 年の大失望がさらなる聖書研究へと導く

1844

調査審判 & 回復された安息日:

アドベンチストの先駆者、エレン・G・ホワイト、ジョサイヤ・ベイツ、ジェームス・ホワイトなどが、第七日目の安

息日を受け入れ、天の聖所におけるキリストの働きを理解する

1863

セブンスデー・アドベンチスト教会が第三天使のメッセージ（黙示録 14 章）を広めるために正式に設立される

1929

SDA 改革運動の世界総会の設立:

運動が国際的に広がり、世界規模での伝道のために組織される

現代

近代の発達

セブンスデー・アドベンチスト改革運動の設立

1914-1918

第一次世界大戦 & アドベンチズムにおける危機:

第一次世界大戦中、ヨーロッパであるアドベンチストの指導者たちが兵役を支持し、安息日に武器を取ることを拒んだ信徒たちの間に分裂が生じる

1925

SDA 改革運動の正式な設立:

忠実なメンバーが SDA 改革運動を組織し、聖書的の非暴力、安息日遵守、そして健康改革に固く立つ

20 世紀

成長 & 迫害:

SDA 改革運動が共産主義や独裁政治の下、難題にもかかわらず成長する

21 世紀

継続した伝道:

運動は引き続き、健康改革、慎み、終わりの時代の預言に重きを置いた本来のアドベンチストの諸原則を掲げることに専念している

あなたはどの霊を持っているだろうか？

エリザ・H・モルトン著

あなたはどの霊を持っているだろうか、わが兄弟よ
あなたはどの霊を持っているだろうか、わが友よ
あなたの救い主キリストの霊だろうか？
送ると約束された霊だろうか？

慰めを与える霊だろうか？
祈りへ導く霊だろうか？
どこでもイエスとの交わりを求める霊だろうか？

へりくだる者にする霊だろうか？
愛と力の霊だろうか？
毎瞬間、毎日、毎時間
他の人のために感じる霊だろうか？

今日、地には広く悪霊がいる。
わが友よ、どの霊が支配しているだろうか、
そしてあなたの思いを導いているだろうか、
ああ、教えてほしい

しかり、サタンはそのすべての使たちと
地上において、心の中で働いている、
彼らを神の栄光から遠ざけ、
深く低く苦悩の深みへと導くために

神の霊をあなたの魂とわたしの魂にもたらすのは信
仰である。
そうであれば立ち上がって、約束をつかもう、
立ち上がるなら、あなたの光が輝くであろう